第七号一九七九年春



失われた分 自の味わりを持 熟成に発成を重ね。可 Cab teter of the

文取。

まる聴衆は高い層の人達(?)か、物好きな一度きりの大体同 理解しようとしないのかと思う。学校教育の影響もさることな けれど、これに比べ日本の若者は何故自分の国の音楽を聴こう、 けいのロビーでは又熱心に日本楽器への質問攻めに会った。 識りたいと、舞台に食い入るような追求の瞳が感じられた。休 してヨーロッパ、十八日は印度・東南アジア方面の来賓だった。 伝統楽器による古典と現代の音楽演奏であった。十七日は主と の会が一夜に亘って催された。嫉節子女史の創作舞踊と、私達 じ順ぶれ。相変らずテレビの騒音に人気をさらわれ、浮足立っ がら、今既にこれ程発展を極めている現代邦楽観賞に当り、集 ている現状なのだ。 一夜共七十人からの集まりで、いずれも日本の音楽をききたい 熱いまなざしは日本音楽集団海外公演でも痛い程感じた事だ 弥生十七、十八日、東京在住の各国領事館大使をお招きして

はお時世について行けない。 ら来る。勿論古典は大切である。基礎である。でもこれだけで 報近「伝統芸能を守る××」と称する会の誘いがあちこちか

う楽器?」への偏見にメスを入れ、目覚めさせてやりたい。 に若者達を魅する音楽を委嘱している。そして、あれ、何てい 者の好む音楽を、日本の楽器で展めて行ったら――と今私なり が踊る。唯むつかしいと背をむけられる現代邦楽の片方に、若 私はロックもジャズもフォークも大好き。この音が鳴ると味

の若者を愛する為にも……。 方を感じさせる現代邦楽を手拡く作って行きたいと希う。日本 全国の各グループでしっかり手を握り合い、伝統と現代の両 (山田美路子)

日本音楽集団及び団員に関する今後の主な予定石田一志・木村重雄・小宮多美江・土田貞夫・長尾一雄	一九七八年度後期現代邦楽の作品と演奏心に残ったものから	日本音楽集団第四回作曲公募についての結果報告	最北に育む音楽の喜び 佐薙のり子	日本音楽集団地方公演78の記録 坂井敏子	新しい邦楽を担う人たち 長沢勝俊・尾崎太一	52春の総合定期演奏会・一演奏家による作曲へのアプローチその二52春の総合定期演奏会・53定期演奏会・ 邦楽器と綴る四つの物語	グ	日本音楽集団ー九二九年度前別		いわゆる現代邦楽をめぐる雑感 戸口幸策	ベルリンの日本音楽集団 室井摩耶子	笛のなきごと 福原百之助	歌楽帖 の即興のすすめ 三木稔	33	○座談会 ジャーナリストの見た現代邦楽	新聞三紙・雑誌四誌の批評から(転載)	〇日本音楽集団連続定期演奏会	○現代と現代邦楽 柿木吾郎	●特集 ジャーナリズムと現代邦楽	文取 山田美喜子	目次	邦楽現代第七号一九七九年春
45	40	30	28	26	22		18	3 1	5	14	13	12	8		34	4	1	2		1		

現代と現代邦楽

本号は現代邦楽とジャーナリズムの特集号であるとのことだが、執筆時間の制限もあったため、比較的自由な書き方で、ジャーナリズムへの期待比較的自由な書き方で、ジャーナリズムへの期待とも含めて、現代の日本における現代邦楽について、日頃考え、感じている事の一端を書かせて頂くことにしよう。

■音楽の隆盛と世界的傾向

日本の歴史の中で、現代ほど音楽が盛んな時代がかつてあっただろうか。一方においてはヨーロががかつてあっただろうか。一方においてはヨーロががかつてあっただろうか。一方においてはヨーロがかつである歴史的な音楽、すなわち邦楽が、国の文化政策として法律に基いて保存、奨励され、優れた政策として法律に基いて保存、奨励され、優れた政者の層を厚くしつつあることは確かであり、ご好者の層を厚くしつつあることは確かであり、ご好者の層を厚くしつつあることは確かであり、ごり受にたえない。

まり、大正年間に開花したあの先駆的な新日本音まり、大正年間に開花したあの先駆の歳が全くなかもしも、このような人々の問題意識が全くなかったならば、「4人の会」や「日本音楽集団」というものは決して生れては来なかったろうと思われるからである。それどころか、明治の晩年に始れるからである。それどころか、明治の晩年に始れるからである。それどころか、明治の晩年に始れるからである。それどころか、明治の晩年に始れるからである。それどころか、明治の晩年に対する。

柿木吾郎

証明していると言えるのである。 業が強い生命力に満ちた生きた音楽であることを芸術運動は、音楽史的観点からすれば、まさに邦生音楽に始まって、今日の現代邦楽に至る一連の楽ですら、生れることはなかったであろう。新日

さて歴史の展開をマクロに捉えてみるならば、近代以後の世界史の展開は、ますますグローバルがつ有機的な様相を呈しつつある。それはもう、の研究」の中で論じたような、或る文明が他の文かで、とっくに越えてしまっている。

このような歴史的展開の中にあって、大袈裟に このような歴史的展開の中にあって、 ドイツの代表的音楽学者でしても同様であって、 ドイツの代表的音楽学者でしても同様であって、 ドイツの代表的音楽学者であるヴァルター・ヴィオラは、その論著「世界音あるヴァルター・ヴィオラは、その論著「世界音あるヴァルター・ヴィオラは、その論書「世界音あるヴァルター・ヴィオラは、 日本独自のローカル このことを鋭く指摘している。

と、作曲における過去の排除』である。 性界的音楽文化に見られる共通的特徴は、『(民 世界的音楽文化に見られる共通的特徴は、『(民

明清楽の研究的演奏に至るまで、過去のあらゆる現代の日本では、失われた龍楽曲の復元から、

特集 ジャーナリズムと現代邦楽

向の一端なのである。 時代の音楽が国立劇場を中心として演奏されており、多くの聴衆によって熱心に鑑賞されている。 のであり、また例えば、日本音楽集団の創作初演 曲に見られるような、さまざまな度合においての 曲に見られるような、さまざまな度合においての の一端なのである。

■音楽批評とジャーナリズムの百科事典を参照してみたら、ジャーナリズムの記様はラテン語の《ディウルナ》 diurna で、これは地域社会の中で日々起生する新たな出来事を広く大衆に知らせることを意味するとのことであった。しかし一般社会の出来事と違って、音楽のこと、すなわち音楽会の記事が新聞や雑誌にのること、すなわち音楽会の記事が新聞や雑誌にのること、すなわち音楽会の記事が新聞や雑誌にのること、すなわち音楽会の記事が新聞や雑誌にのることは始どなく、大抵は音楽批評という形で報ぜられているようである。

ここで一つの話題として、本年一月の二十二、 二十三の両日に開かれた日本音楽集団の創立十五 二十三の両日に開かれた日本音楽集団の創立十五 全文、本号に収録されるそうであるから、読者諸 全文、本号に収録されるそうであるから、読者諸

音楽批評を、さらに評論しようとしているのでは私はここで、優れた評論家たちによるこれらの

ない。ただ、少し注意して読んで頂くと、これらか、まずは、前に述べた現代の音楽事情に関するして当て嵌まることに気付かれることと思うので、その点を指摘したいのである。

演奏そのものに関しては、例えば「鹿の遠音」のような古典曲の場合も、「華やぎ」のような二十統等用の現代曲の場合も、「華やぎ」のような二十統等用の現代曲の場合には、どうしてもその曲の中でどのように過去が排除されているかという点中でどのように過去が排除されているかという点中でどのように感ぜられてならない。たまたま、古典品の位置をめぐって、深い関心が示される場合がで、すなわち、いわばこのような線上でのその作品の位置をめぐって、深い関心が示される場合があれたがどのように現代的な音楽空間を実現し得た体用されている「史魂」のような作品の場合には、採用されている「史魂」のような作品の場合には、採用されている「史魂」のような作品の場合には、技術を表示している。

したいの人が表に関する或る重要なイヴェントとれらの優れた批評家によって代表される、現代とれるの人が表に関する或る重要なイヴェントという。

リズムがかなり現代音楽を熱っぽく扱っている方台は、どうしても少くなっているようであるが、合は、どうしても少くなっているようであるが、合は、どうしても少くなっているようであるが、一般に、ジャーナリズムは新らしい価値を積極

れることを心から期待するのである。 れることを心から期待するのである。

■型の算重と時代感覚 日本の芸能は、型の文化であるとよく言われている。確かに古典的芸能は発どがこの構成原理に と当紙る。つまり音楽の教育は、このような独特 く当紙る。つまり音楽の教育は、このような独特 な型の口承的伝承であり、また音楽の演奏は、こ な型の口承的伝承であり、また音楽の演奏は、こ のような型の構成を如何にデリケートに再現し、 どのようにしてそこに深い感情移入を行うかと言 どのようにしてそこに深い感情移入を行うかと言 それは「型と思い入れの芸術」と説明することも それは「型と思い入れの芸術」と説明することも それは「型と思い入れの芸術」と説明することも

私が時折遭遇する邦楽の問題点も、実はこの辺に由来する場合が多いようにも思われる。つまり「型」はモードであり、「思い入れ」はフィーリングに他ならず、両者とも実は最も深く時代感覚ングに他ならず、両者とも実は最も深く時代感覚が守られているようで、時代感覚を超越した次元が守られているようで、時代感覚を超越した次元で価値観が構築されている。

西洋の音楽史を読めてみても、歴史的な音楽様

ら、常に新たな音楽が生れているのである。関係にあり、そのデリケートな磁場の乱れの中か関係にあり、そのデリケートな磁場の乱れの中か式と新たな時代の時代感覚は常に対立する力学的

日本音楽集団の活動に接する度に、私はいつものカファンとして、いっそうの発展を期待しているのファンとして、いっそうの発展を期待しているのが第である。

日本音楽集団の総ての作品について研究しているわけではないので、あるいは誤っているかもしれないのだが、器楽曲の分野でこんなに輝かしい、横を、すでに幾つかの誌上で読んだ記憶もあるが、ただ私の意見は、最近のジャーナリズムに表れるただ私の意見は、最近のジャーナリズムに表れるただ私の意見は、最近のジャーナリズムに表れるただ私の意見は、最近のジャーナリズムに表れる

私は声楽曲の場合にも、擬古的なやり方でなく、過去を排除する方向で創作されるのが一番自然なことだと思うのである。勿論これは排除のための立脚すべきだと思うだけである。この事は歌詞の内容についても、発声についても同様であって、古典邦楽の場合と差違が生じても、いっこうに差されるのではないだろうか。

現代邦楽、それは何と言っても日本人のための現代邦楽を通じて古典邦楽に接近しているというあることを見逃してはならない。それは若者達があることを見逃してはならない。それは若者達があることを見逃してはならない。それは若者達がある。とを見逃してはならない。それは若者達がある。

新聞三紙・雑誌四誌の批評から「転載」日本音楽集団連続定期演奏会

日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は今年の一月二十二、二日本音楽集団は一月二十二、二日本音楽集団は一月二十二、二日本音楽集団は一月二十二、二日本音楽

尚、ここに掲載した他に、連載の批評 高、ここに掲載した他に、連続作品」(40~42ページ)の中にも、連続に触れたものがありますので、合せてご覧下さい。

和楽器合奏に飛躍的な進歩

日本音楽集団が第四十九回と第五十回日本音楽集団が第四十九回と第五十回に達したこと、第五次海外公演からの帰国記念、こと、第五次海外公演からの帰国記念、こと、第五次海外公演からの帰国記念、一つので創立十五周年を迎えることなど、日本音楽集団が第四十九回と第五十回

ていたように思う。

等(こと)・三味線・尺八・琵琶へび 等(こと)・三味線・尺八・琵琶へび がら逃れることが出来ない。伝統と現代 がら逃れることが出来ない。伝統と現代 がら逃れることが出来ない。伝統と現代 性、個々の楽器の微妙な持ち味と大合奏 性、個々の楽器の微妙な持ち味と大合奏 性、個々の楽器の微妙な持ち味と大合奏 性、個々の楽器の微妙な持ち味と大合奏 性、個々の楽器の微妙な持ち味と大合奏 性、個々の楽器の微妙な持ち味と大合奏 性、個々の楽器の微妙な持ち味と大合奏 を関連動しながら絶えず新たな止機を目指 を関であろう。むしろこの両種の間を住 ない。それはこの先も続くにちがいない。

弓法を統一し、十八世紀ドイツのマイへいものがある。その昔オーケストラの選びみると、合奏力の質的向上はめざましてみると、合奏力の質的向上はめざまし

りひろげられているのだが、現状の大勢 演奏には聞かれるようになって、個々の げている。その上、良く弾き込まれたも イム楽派の革新を思い起こさせるような、 帰、そして新たな懐疑へ踏み出すといっ のような動きは作品に関しても言える。 自発性が以前とは一段階上の次元で"回 のでは、のびのびと歌う楽しさが最近の 和楽器合奏の飛躍的進歩を彼らは成し遂 見える。日本音楽集団の今後いっそうの ない高次元での回帰の方向にあるように は、豊富な体験を手中にしているトップ た、いわばラセン状の展開が創造面で繰 伝統への安住、懐疑、反発、再評価、 十二、二十三日、いずれも都市センター ダイナミックな発展に期待したい。(一 レベルにあっては、伝統にあえて反発し ホールン してきているように感じられる。こ [0]

京れ難い感銘『巨火』大合奏

ろうという旗印の下に組織され、企画、 機楽器を用いて、現代に生きる音楽を創 集会五十回記念公演を催した。日本の伝 なの伝

活動を続けている団体である。

数百年の歳月の波に洗われた古典邦楽 は、それ自身すでに完成された厳しい美 しきを持つが、日本音楽集団のいわゆる 現代邦楽には、発想においても、業器の 使い方においても、実際に出来上がった 作品の音の響きにおいても、、 無器を 用いながら、なお伝承の芸に束縛されぬ 開放性、日ごろ西洋音楽になじんでいる 者でも、違和感を抱かずすんなり入って 者でも、違和感を抱かずすんなり入って 行ける親しみ易さ、普遍性がある。 グル ープ構成メンバーの若さ、感覚の新しさ によるのだろう。

有名な古典本曲「鹿の遠音」を八本の 尺八用に編曲した宮田耕八朗の趣向は面 尺八用に編曲した宮田耕八朗の趣向は面 中で、特に静謐(せいひつ)な詩 時けた中で、特に静謐(せいひつ)な詩 時けた中で、特に静謐(せいひつ)な詩 時は一で、特に静謐(せいひつ)な詩 時は記録がする悦びを、高度の技術に託し における二十絃箏独奏、変化に宮む楽想 における二十絃箏独奏、変化に宮む楽想 における二十絃箏独奏、変化に宮む楽想

□赤旗□月三日 小宮多美江

強く感じた長足の進歩

二夜を合わせて、長沢勝俊の「飛驒に に はる三つのバラード」「二つの舞曲」 「ファンタスマゴリア」、三木稔の「く さだんど」「華やぎ」「巨火」、広瀬量 るだんど」「華やぎ」「巨火」、広瀬量 るだんど」「華や声」が歴史的な意味をもってえらばれ、遠音」が歴史的な意味をもってえらばれ、 中屋正邦の「史魂」(委嘱)と小宮傑の「飛驒に に が初演された。

今さらながら強く感じさせられたのは、 今さらながら強く感じさせられたのは、 という二つの創造的個性と、多様な演奏という二つの創造的個性と、多様な演奏という二つの創造的個性と、多様な演奏といることだった。 長沢の尺八と箏五重奏の「パラード」では、筝四人の息の合ったアンサンブルに目をうばわれた。三部分は歩荷へぼっか)立円(たちつぶら)杉玉と題され、自然と人間とがごく近しい形で営まれる自然と人間とがごく近しい形で営まれる自然と人間とがごく近しい形で営まれる自然と人間とがごく近しい形で営まれる。 生活と感情をあらわしており、長沢独特の世界である。その世界に、奏者たちがのから入りこんでいるさまがありありと心から入りこんでいるさまがありありと

が掛け声をかけ合いながら競演に入るが、半、舞台四隅に位置した打楽器奏者たち、異常がさめやらぬ形で反映していた。後異常がさめやらぬ形で反映していた。後

表れている。この奏者の左手の表現力は坂恵子の二十絃ソロによる「華やぎ」に五水がたい気持ちを味わわされていた。大がたい気持ちを味わわされていた。

センターホール 一月二十二日、東京・都市 ますます冴えをみせてきている。

□音楽の友三月号 日本音楽集団定期コンサート五〇回記念 日本音楽集団定期コンサート五〇回記念

作品は、長沢と三木が各々三曲ずつ演 集団独得のサウンドを通して伝わってき 集団独得のサウンドを通して伝わってき たことはさすがだと思った。そのなかで たことはさすがだと思った。そのなかで

> げられよう。「ファンタスマゴリア」に 品にはいかにも邦楽畑からの発想と思わ 発想が長沢作品に近く思われた。杵屋作 という印象もある。この二人の作曲家以 る胡弓のソロも今回はしっかりしていて 三木作品では「華やぎ」と「巨火」が挙 れる不思議な明快さと空由感が面白かっ の二作あったが、小宮作品はあまりにも と四つの子供のうた」と、杵屋の「史魂」 力的だった。今回初演曲は小宮傑の「序 とにカオス状の響きの輝きと豊潤さは魅 をもった曲だったが、豊かな音色感、こ 作曲家とちがって、独得の散文的な流れ にすぐれていると思った。座付の二人の 外の作品では、広瀬の「夢十夜」がとく 演奏自体がぐんぐんよくなってきている これで三回聴いたが、いつもハラハラす ていた。「巨火」の場合は、初演以来、 たし、「巨火」には造形力の確かさがで でみせる抜群の作曲の旨さが結集してい 作品では「華やぎ」にこの作曲家が箏曲 管弦楽法の特色が集約されていた。三木 は、長沢の暖かく和やかな旋律的発想と ら構成された「ファンタスマゴリア」が、 のための組曲」と「人形風土記」の中か いる為もあろうが、長沢作品では「子供

感銘深い人華ヤぎ>

武田明倫

創立一五周年を迎えた「日本音楽集団

の定期が<定期コンサート五○回記念> として二夜連続して開催され(四九回、五○回)、その後者を聴いた。演奏会には「その歴史からさまざまな話題の曲を という副題がそえられていた。 演奏家と作曲家が中心となるこのユニークな集団が活発な活動裏に創立一五周 年を迎えたことは、筆者はこの集団の主年を迎えたことは、筆者はこの集団の主ではないとはいえ、やはり慶賀すべきことがある。

与しているのだと思う。 た。今日までの三木作品においても、筆 その枠を越えた新鮮な音楽が成立してい 対する感覚を受けついだ地平で、なお、 には継承されており、伝統的な「音」に としての「箏曲」の様式と技法が基本的 ど見事に克服し、すばらしい表現を達成 坂はその技術的困難さを完璧と思えるほ 野坂恵子が二十絃筝の独奏で演奏した いのだが、それには野坂の存在が強く関 者には筝曲に優れた共鳴できる作品が多 していた。そこでは、わが側の伝統音楽 とに困難な名人芸を要求しているが、野 木作品は奏者に、左手奏法を含めてまこ ▲華やぎ》だった。この一九七六年の三 このうちもっとも感銘の深かったのは

ついで印象的だったのは、冒頭に演奏

新鮮で効果的であったのではないだろう は実際のトータルな響のうえできわめて 互いに関係を持ちあうことが、結果的に ものではなく、八人が半円形を成してお けっして一対一を四対四にただ拡大した は本質的に全く異なる世界を生みだして る人鹿の遠音》は、二本が奏するそれと うに、結果的には、この八本の尺八によ 奏者の位置のとり方からも推察される上 八人の尺八奏者によって奏された。この が舞台に半円形を成立するよう位置する が、今回の宮田ヴァージョンでは、これ 米、二人の奏者が対面して奏するものだ ある。尺八本曲である人鹿の遠音》は本 された八人の奏者による《鹿の遠音》で 感銘を受けたのは、 が生み出す多様なかかわり合いのおもし か。さてここから立ち上ってくる響たち いた。つまり、 しばし魅了された。筆者が真に この宮田ヴァージョンは この二曲だった。

成る三曲のうち、 《巨火》は三十分近 成る三曲のうち、 《巨火》は三十分近 を体は三部に分かれており、「秩父屋台 全体は三部に分かれており、「秩父屋台 全体は三部に分かれており、「秩父屋台 全体は三部に分かれており、「秩父屋台 を体は、視覚的にも見事な効果をあげてい どは、視覚的にも見事な効果をあげてい どは、視覚的にも見事な効果をあげてい だが、大編成のオーケストラのほとんど すべての楽器にソロをまわす第二部、作 中者が「遊び」あるいは「スケルツァン 曲者が「遊び」あるいは「スケルファン 曲者が「遊び」あるいは「スケルファン

> していたというべきだろう。 もとしまれて楽しんでいたようだから、客き込まれて楽しんでいたようだから、客

特屋作品では、様式上の不統一をかなり強く覚えた。つまり、具体的にいうならさまざまな楽器をからみ合せた「響」の作り方と、伝統的な音感をあまりにもの作り方と、伝統的な音感をあまりにもの間に、ギャップがあったように思うのの間に、ギャップがあったように思うの間に、ギャップがあったように思うの間に、ギャップがあったように思うの間がたびたびあったのだが、旋律が主導間がたびたびあったのだが、旋律が主導にをとるようになると、いささか陳鷹に権をとるようになると、いささか陳鷹になってしまうのだ。

が会体に長沢作品。この作品は同氏の旧様を がるというが、様式的な統一感や作曲の 技術的な面では、それなりにきわめて高 技術的な面では、それなりにきわめて高 技術的な面では、それなりにきわめて高 は従来から、このような方向で日本の伝 は従来から、このような方向で日本の伝 は従来から、このような方向で日本の伝 は従来から、このような方向で日本の伝 は従来から、このような方向で日本の伝 は従来から、このような方向で日本の伝

②パーティもあった。この前日にも第四 日本音楽集団が第五○回目の定期演奏 会を迎えた(一・二三都市センター)。 会を迎えた(一・二三都市センター)。

は聞けなかった。これは荒谷俊治の客演 九回の定期演奏会があり、 屋台囃子が出るまでの序の部分に当る導 然とした形式感を伴って曲想が成長して なるのでなく、指揮者の責任において整 奏者の内発性がそのまま曲の盛り上りに が演じているので、だだの時のように演 第四番兼指揮者を、 続して感じられた。ただ今回は打楽器の もあって、その時の緊張感がそのまま特 時と殆んどのメンバーが同じであるせい 得たことはすでに書いたが、今回はその 三七回定期の時には受けなかった感銘を ぶ・だだの演奏会で聞いた時、 を演じた。「巨火」は、昨年夏にぐるー 外公演のメインになった「巨火」その他 任指揮者の田村拓男の指揮で、 などが演奏されたという。第五○回は常 指揮で、第一回ゆかりの「くるだんど」 続いたわけだが、私は所要で四九回の分 幅の広い歩みがわずかながら見えて来た 音楽の主題が輝き出る時の、 いう感じを受けるけれども、しかし民俗 入部が、作品としていくぶん長すぎると に進んでおり、むしろ再び前進姿勢の歩 に三本あるいはこの集団の音楽は前向き 器類の作品という気がするが、それなり この曲は三木にとって、 価をこのように近接して聞いてみると、 に似た感情は華やかに演出された。再二 行くのが確められた。そうなると、秩父 「くるだんど」を呼ぶための模索的な過 指揮本職の田村拓男 やはり第二の 演奏会が二日 大きな喜び 初演の第 昨秋の海

気がする。問題点としては、民俗音楽の サンブルのすこやかさや、 うことが今回もまた指摘されるが、アン 比べてまだまだ温和で、温和なるべき西 主題のとらえかたが民俗感覚そのものに での演奏のなかでも出色のもので、この のソロを持ち役として来た坂井のこれ で強かれた坂井敏子の太棹のソロは、こ を綴った「ファンタスマゴリア」のなか 感覚には邦楽家の感性も光った。宮田耕 から主要部分に移るあたりの冷えた間 言えよう。昨秋書き加えられた序の部分 年目をかざるにふさわしい演奏だったと 構築力のたしかさと共に、やはり一五周 藤も再開されており、驚くべき音楽的な あったが、二十絃箏の邦楽的感性との葛 オーソと思われる感触で一貫した演奏で これもまた、殆んどピアノのヴィルトゥ の第五曲を独立させ手を加えたもので、 **絃箏の「華やぎ」は「箏譚詩集第二集** されるのであろう。野坂恵子が弾く二十 しさ」の宣言への再評価は近い将来にな の整備であるが、発足当初の「あらあら れはどちらかというと洋楽感覚へ向けて わって来たことは大いに認めてよい。そ ことなど、従来の境地にブラスの面が加 力(特に楽員個々への)が非常に増した とりの音楽的充実や、田村の指揮に説得 覚との間の充分な葛藤が見られないとい 洋器楽風感覚とあらあらしい日本民俗感 八朗中心の八本の尺八による「鹿の遠音」 宮田耕八朗編曲)と、長沢勝俊の旧 楽員ひとりひ

への最初の委嘱という点で、集団の新し 場の音と対話する販井の声が聞かれた。 実の音と対話する販井の声が聞かれた。 実に、足台を使って立って弾く杉浦弘和の や、足台を使って立って弾く杉浦弘和の や、足台を使って立って弾く杉浦弘和の を、足台を使って立って弾く杉浦弘和の なが、坂井の印象は 会国格別だった。また杵屋正邦に委嘱し た「史場ー晶古知新」は、邦楽系作曲家

ター・ホール) ター・ホール)



い姿勢を期待させたのが第一の意義であろう。正邦の曲にはいろいろな意味で、 あって、曲としては控え目だが、なお早 舞の音型から締太鼓のキザミを地にした 音奏をかなり長く聞かせたあたり、田村 合奏をかなり長く聞かせたあたり、田村 の指揮の対応も面白く、新しい血が注が れた感じがした。

日本音楽集団49・50回定期演奏会 □音楽の世界四月号---高橋雅

日本音楽集団の活動はもとより、海外公試も行い、伝統楽器による音楽の真価公話も行い、伝統楽器による音楽の真価公話が、昨年秋に第二回音楽之友社賞をきいが、昨年秋に第二回音楽之友社賞をきいが、昨年秋に第二回音楽之友社賞をの実績が高く評価されたのだろう。そして今年で十五周年を迎えた。

今回は二夜連続の演奏会を開いた。第 今回は二夜連続の演奏会を開いた。第 で始まった。この作品は子供時代の ある春の一日を五つの小品としてまとめ ある春の一日を五つの小品としてまとめ たもので、そのナイーブな感性に好感を もったが、やや個性に乏しい感がある。 書かれた作品が本人ならではのものかど うか。内容が作曲者の主観を離れ、作品 として聴衆の前に客観性をもつとき、共 有しうる現代と作品内容がどういう関り 合いをもつか追求する姿勢がほしい。内 容が作者の慎古にだけ終るのは惜しい気 がする。二曲目は長沢勝俊作品「飛騨に

> は世る三つのパラード」で熟練した手法と、複独特の感性がよく溶け合った秀作。 と、複独特の感性がよく溶け合った秀作。 と、複独特の感性がよく溶け合った秀作。 と、複独特の感性がよく溶け合った秀作。 と、複独特の感性がよく溶け合った秀作。 と、複独特の感性がよく溶け合った秀作。 と思った。四曲目は三木稔作曲「くるだんど」、奄美の旋律をさらに詩情味豊かな作品で、邦楽器群と合唱がよく調和して、奄美の旋律をさらに詩情味豊かな作品にしている。演奏は男声と女声のパランスと乱れがやや気になった。終曲はランスと乱れがやや気になった。終曲はランスと乱れがやや気になった。終曲はランスと乱れがやや気になった。 長沢勝俊作品「二つの舞曲」で邦楽器アンサンブルの効果を十分に発揮した魅力ンサンブルの効果を十分に発揮した魅力とある作品だと思った。

この曲は一本で奏されるが、八本により アンタスマゴリア」は「子供のための組 うに思える。三曲目は長沢勝俊作品一つ の響きの内容と、素材の間に満があるよ せた方が効果があったのではないか。音 をみつめるような、純粋な創作曲で語ら ことなく、伝統邦楽の基礎に立って将来 るならば、素材に下座音楽を借りてくる 音楽の歴史の過程における一作品」とす 二曲目の杵屋正邦作曲「史魂」は「日本 の内に、別な世界を観たような気がした。 それまでの本曲とは異なった新鮮な響き る」(宮田耕八朗編曲)で始まった。 本来 ニボボ・のろま人形」)を選び、組曲風 曲」と「人形風土記」の中より、今回は 「子供……より第一・五章」「人形…… 第二夜は「鹿の遠音―八本の尺八によ

> た。 本総作品「華やぎ」は二十粒の機能をラ 大総作品「華やぎ」は二十粒の機能をラ 大総作品「華やぎ」は二十粒の機能をラ 大総作品「華やぎ」は二十粒の機能をラ 大に発揮し、困難な技巧を要求される作 品だが、野坂恵子の演奏はそれを越えて 内容がよく表現されていた。五曲目も同 じく三木総作品「巨火(ほて)」は三〇 内容がよく表現されていた。五曲目も同 じく三木総作品「巨火(ほて)」は三〇 内容がよく表現されていた。 があなしっかりした基盤の上に作られた 形的なしっかりした基盤の上に作られた 形的なしっかりした基盤の上に作られた が品だと思った。第三部の秩父屋台囃子 の強烈なリズムが印象的だった。曲の内 の強烈なリズムが印象的だった。 書の規模が大きいだけあって、時間の長 さも納得できた。(一月二二・二三日、 さも納得できた。(一月二二・二三日、

歌楽帖4

即興のすすめ

然的に美学や哲学が生れる。 然的に美学や哲学が生れる。 然的に美学や哲学が生れる。 ないに美学や哲学が生れる。 ないのに美学や哲学が生れる。

例えば、王選手のように最高を極めた人のこと が栄えた頃の民衆の関心の度合いはどうだったの が栄えた頃の民衆の関心の度合いはどうだったの だろう。ペートーヴェンやワグナーが人々の生活 だろう。ペートーヴェンやワグナーが人々の生活 に占めたパーセンテージを想うと、少くとも風俗 に占めたパーセンテージを想うと、少くとも風俗

ようなこともあるが、芸術誌で解読不能に近い意年からスポーツ新聞をとるようになった。相当に年からスポーツ新聞をとるようになった。相当に任俗な記事も多く、馬鹿にするなといいたくなる低俗な記事も多く、馬鹿にするなといいたくなる大きくなった私の娘たちが、上は近鉄バッファ大きくなった私の娘たちが、上は近鉄バッファ

いき当る。たとえば、こうだ。とばの中から、ホウと読み返してみる記事によく識にばかり付き合わされていると、その平易なこ

す。今日の具志堅のバンチはまさにそのいい例」 ずしも力を入れれば飛ぶというものではないんで 来たという王選手。……しかしさすが野球の奥義 りしていたのは、初めてナマのボクシングを見に が倒れていた」と大きな目玉をひんむいてびっく 蓄のある言葉だ。その横のコラムを読んでみる。 といっている。まるで最高級の演奏家のような含 気持を捨てなきゃ、いい泳ぎは出来ないものよ」 球と共通するところがあるような気がしますね。 と分析。「それに相手の目を見るという点でも野 れると「うん、野球でもそうですが、ボールは必 を極めたワンちゃん。具志堅の強さの秘密を聞か ていた。〈日刊スポーツ四月九日付〉 ながら足早に控室に駆けつけて、具志堅を祝福し いい勉強になりました」と満足げな笑みをうかべ カム嬢は、十六歳だというのに「がんばるという 豪州からきた水泳自由型のトレーシー・ウィッ ―「よく見えなかったよ。気がついたら相手

を越え、美学や哲学も慈えて、宗教的な領域にま物事が奥義に達すると、ジャンルや様式の違い

三木

念

超能力のようなものが働き始める。

即興、乃至即興精神ではなかろうか。

が、そこに到達するための出発点は何だろう。

だが、そこに到達するための出発点は何だろう。

0

スポーツでは常に状況は可変である。球は予測を超えた場所に来る。人間が生れながらに持つ反を超えた場所に来る。人間が生れながらに持つ反を超えた場所に来る。人間が生れながらに持つ反を超えた場所に来る。人間が生れながらに持つ反とが後に関連するだけでなく、全試合の流れを決定づける時すらある。即断即決にたけてはじめて人気ある選手が生れる。

音の作り方に影響を与える。「あのソナタの第一で、一曲中の一音節の動向は、その時の演奏者でも、一曲中の一音節の動向は、その時の演奏者でも、一曲中の一音節の動向は、その時の演奏者である。一曲中の一音節の動向は、その時の演奏者である。「あのソナタの第一番楽の演奏も状況は似ていないだろうか。音の

な構成を生み出していくことになろう。と問違えておいたよ」といった話は度々きく。また自由な間の設定をまかされた現代曲で、最初の間のとり方が決ると、必然的に次の間が打ち出される。それは、ひいては全曲にわたってリズム的れる。それは、ひいては全曲にわたってリズム的れる。それは、ひいては全曲にわたってリズム的は、再現部でも同じよう

のより高いが、それは相手のビッチが、定められたも されるものではない。できるなら腕のいい方はそ されるものではない。できるなら腕のいい方はそ をする場合、平の譜面を相手が!で演奏すれば、い 自分もある程度音量を上げなくてはならない。い もある。それらは舞台でのさまざまの状況を反射 もある。それらは舞台でのさまざまの状況を反射 もある。それらは舞台でのさまざまの状況を反射

多人数の合奏の中でもそうだ。自分一人が正当ある。それをかたくなに守っては大ていの音楽はある。それをかたくなに守っては大ていの音楽はある。

を を を ういった 簡単なことが、 本能的にできない奏 できるものだ。

の伝受で邦楽界が成立しているからであろう。
るものはその柔軟さだ。型を最高の美徳とし、そ

0

ふだんの会話は全て即興である。「いいお天気

万化のニュアンスをもって話される。話のもって万化のニュアンスをもって話される。話のもってだわね」といった決り文句にしたところで、千変だわね」といった決り文句にしたところで、千変

・音楽は、発生時はこのとっさの会話と同じ即興 からその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 なられる以前、最初に作った人の演奏は即興的 はえられる以前、最初に作った人の演奏は即興的 ないらその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い、現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い。現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い。現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い。現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い。現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い。現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い。現代に至っては可 からその柔軟性・弾性を失い。現代に至っては可 からその表すになった。

れ最も正しいものとして丸憶えしてしまった。師 弟子たちは、自分が教わった時の状態を、それぞ 大体、教わる方は始祖より劣るものが多いから、 ように伝わったが、歌は師匠の気分次第で違うし、 であるし、手の動きは記録し易いから、ほぼ同じ て、十人十色に教えた。三味線は歌を支える基本 あったかないか、ここでは問題ではない)によっ 弟子に伝わる。師匠は口伝(その時、もう楽譜が 互いにたぐり合う見えない糸があった。その芸は その表現は変化した。お客と作者・演者の間に、 に、いつも自由な歌をうたっていた。その日の自 地歌は湖出市十郎)は、三味線の基本的な手の上 立つ。二百年前の作曲者へ長唄として杵屋佐吉、 かし、派内では歌い方も判をついたように型通り 分の感情・場所の差・相手の数や聞き方に応じて、 になる。そこで相当勝手だが、こんな推理が成り 殆んど変らないが、歌い方はさまざまである。し 地歌へ黒髪〉を見る。三味線の手は、どの派も

た、といったこともあったであろう。ところを、正式に決りの数として、おしいただいところを、正式に決りの数として、おしいただい

孫弟子になると、その歪みは倍々増。そうこうしているうちにタブラチュア(奏者用便宜譜 ―― 各楽器の縦譜はそれ)が制定され、一曲がさまざまの表現をもったまま、もはや動かし難く決っていく。

が期待されるなんて全くない。即興は消えた。

0

確信している。
日本に即興の伝統は本来的には数々あるはずだ。
民族芸能の分野もずい分と型が決ってしまったが、
民族芸能の分野もずい分と型が決ってしまったが、

日常的にも、自在さはむしろ日本のお家芸ではなかろうか。 "当意即妙』といった神髄が、いつなかろうか。 "当意即妙』といった神髄が、いつながろうか。 "当意即妙』といった神髄が、いつながろうか。 "当』がたまらない。個人の意匠が造型された朱色鮮やかな判(印判)は素敵だが、模造自在な朱色鮮やかな判(印判)は素敵だが、模造自在な生色鮮やかな判(印判)は素敵だが、模造自在な生色がない。個人の意匠が造型されたまらない。個人の意匠が造型されたまりが、このような伝統に日本の現代は今後どう対決していくのだろう。元号法制化というのも叶わない。なるべく制定というのは止めにしてもらいたい。

即興は大衆の武器である。権力側はそれが怖い。

にする。一方、家元的存在を望み、エリートとし にする。一方、家元的存在を望み、エリートとし にする。一方、家元的存在を望み、エリートとし にする。一方、家元的存在を望み、エリートとし にする。一方、家元的存在を望み、エリートとし にする。一方、家元的存在を望み、エリートとし にする。一方、家元的存在を望み、エリートとし にする。一方、家元的存在を望み、エリートとし

0

制定に向い、組織や弟子を枠に入れたがる。

て選別されることを欲する芸術家的人物は、

必ず

である。インスピレーションとは、鍛えられた直感ある。インスピレーションとは、鍛えられた直感ある。

私は自分の仕事をこのように定義づけて考える。 もっとも、私がいつもそれを充分に果しているというわけではない。ただ、私の頭の中は常に空想のように停滞する。ひたすら駆け廻る直感を大切のように停滞する。ひたすら駆け廻る直感を大切にインスピレーションは爆発を持ち得ることができると信じている。それを練り上げたものが作曲というものではなかろうか。

その爆発がない作品は死物も同然なのだ。

過去は無数のバターンを持ち、もはや現代の私たちのできる仕事は、そのバターンの現実的な連邦の発見に過ぎないかもしれない、と思うこともある。そう思いつつ、尚かつ私は、鍛え練られたある。そう思いつつ、尚かつ私は、鍛え練られたある。そう思いつらめきの価値を信じぬわけにはいかないでいる。

0

すめる。いや要求しつづけている。すめる。いや要求しつづけている。。彼らにおけるインスピレーションもまいった理解において、常に演奏者たちに即興をすわば即興の真の意味ではなかろうか。私は、そうわば即興の真の意味ではなかろうか。私は、そうかる。いや要求しつづけている。

0

代の神話は発見されなかったと思われる。 であって、即興は数多く試みられた。シュトックにかけて、即興は数多く試みられた。シュトックにかけて、即興は数多く試みられた。シュトックにかけて、即興は数多く試みられた。シュトックにかけて、戦後から七○年代の神話は発見されなかったと思われる。

奏者たちに現代音楽とか前衛の空しさを知らせるの義者の下に行った作曲家たちの怠慢は、結局演の義者の下に行った作曲家たちの怠慢は、結局演の美名の下に行った作曲家たちの怠慢は、結局演の美名の下に行った作曲家たちの怠慢は、結局演の美者たちに現代音楽としては、その前の時代どにまつわって即興は長い間主役の地位を保ってどにまついた。因形楽譜ない。

結果となり、直ちに作曲家たちの地位の下落にったがった。現代風(?)な手をおぼえた演奏家たながった。現代風(?)な手をおぼえた演奏家たちは自ら作曲家になり、不まじめな図形楽譜などの過程を省略して、どんどんダイレクト・コンポージング(?)で舞台を埋めた。決然とそれを批判する評論家は、これまた数少なく、損をするのはする評論家は、これまた数少なく、損をするのはする評論家は、これまた数少なく、損をするのはで高ったつばきは必ず自分に戻る。邦楽を含む現に向ったつばきは必ず自分に戻る。邦楽を含む現に向ったつばきは必ず自分に戻る。邦楽を含む現に向ったつばきは必ず自分に戻る。邦楽を含む現代音楽が低迷する現在の責任は全てが負わねばな代音楽が低迷する現在の責任は全てが負わねばな

0

だ。体得してないものが出てくるはずはない。美学や哲学は、きっちり即興に現われるものなのも出てこない。日常的に演奏家たちが体得したのは出てこない。日常的に演奏家たちが体得したのは出てこない。中常的に演奏家たちが体得したのは出てこない。中常的に演奏家たちが体得したのは出てこない。のは思想である。方法論を持たという。

コード進行に従ってその範囲で自由に音楽を作ることができるジャズは素敵だ。しかし、かつて日本のジャズ・メンたちは、自在なるべきコード内の旋律進行を自分で行うことができず、そのパターンを本場ジャズ・メンたちは、自在なるべきコードから盗が、彼らは風俗としてのジャズを知っていても、んだ。彼らは風俗としてのジャズを知っていても、んだ。彼らは風俗としてのジャズを知っていても、人だ。彼らは風俗としてのジャズを知っていても、人だ。彼らは風俗としている。

0

しかし、そのみじめさを怖れて即興を避けてい を形づくる鋭い感覚そのものは、訓練から得られ を形づくる鋭い感覚そのものは、訓練から得られ

の運用を望むことは行われてよかろう。
の運用を望むことは行われてよかろう。

私は〈凸〉(一九七○)以来、一種の 。合方。 "手事。として、多くの作品に演奏者の自由になるカデンツァ部分を残した。その部分がなくても をたわけではなかった。どのカデンツァも、それ ぞれの曲で、特徴のある要素を持続する必要があり、それを外れたり、その作品全体への理解を欠り、それを外れたり、その作品全体への理解を欠け、それを外れたり、その作品全体への理解を欠ける。 が露呈し、聴衆の失笑を買うことになってしまう。が露呈し、聴衆の失笑を買うことになってしまう。 が露呈し、聴衆の失笑を買うことが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを持ちつづけることが、日本音楽集団のチャンスを見からます。

へダンス・コンセルタントⅠ ──四季>のエピとを経なければ一段上の成就はありえまい。

派なものだと思う。

本人は「まだバッチィからいやだ」といって仲々再現してくれないが、アメリカにおけるへわ〉の利润シリーズ中、ハワイで聞いた宮田耕八朗の尺八部分の即興が忘られない。作曲者が、その曲に托した思想をものの見事にえぐり出してくれた。へ凸〉や〈華やぎ〉でもそうだが、昨年三月虎の門ホールで名フィルと共演の〈破の曲〉のカデンツァでみせた野坂恵子の演奏は息を呑む想いだった。その音たちのうつろいには降りそそぐ光が加わってみえ、気が付いた時には喉はまさにカラカラであった。そのあたりになると、もう作曲家が絶対に譜面に書き表わせない次元のものが感じられてくる。自分は骨組みを作るだけでいいんだられてくる。自分は骨組みを作るだけでいいんだられてくる。自分は骨組みを作るだけでいいんだられてくる。自分は骨組みを作るだけでいいんだられてくる。自分は骨組みを作るだけでいいんだった。

を さらろん、ギャラを払った、もらったという通常 を ちろん、ギャラを払った、もらったという通常 と した骨組や、 骨そのものの素材を理解せざるを得 した骨組や、 骨そのものの素材を理解せざるを得 した骨組や、 骨そのものの素材を理解せざるを得 なくなり、 思想すら共有するようになって、 作曲者の意図 した骨組や、 骨そのものの素材を理解せざるを得 なくなり、 思想すら共有するようになってくる。
あているが、 その繰返しによって、 作曲者の意図
した骨組や、 骨そのものの素材を理解せざるを得
なくなり、 思想すら共有するようになってくる。

試行を繰返す者たちの特権かもしれない。とではあるまい。共通の目的に向って、果しないの上演形態で、作曲家側から押しつけでできるこ

0

条団の演奏家たちの出処である邦楽界は、先に 推論したように、決められた型通り演ずることを 接徳とする。型は美しいし、内容の伝達に必要で あるが、内容が変化をきたしている現代の私たち は、一度型を捨て、今日の日常的現実の音を演じ つづけて、新たな型の出現を待たねばならぬ。 へ決りで演らず、決るまで演ろう〉と思う。

て、即興の足場を作ることはできよう。
も、伝統をふまえていかねばならぬのであるから、
も、伝統をふまえていかねばならぬのであるから、
な統に裏打ちされた日常的現実を拾集し、整理し
て、即興の足場を作ることはできよう。

の手掛りを解明していきたい。会には、そのあたりから日本の楽器のための即興会には、そのあたりから日本の楽器のための即興

笛のなきごと

新宿副都心に、今は林立する高層ビル、そして池新宿副都心に、今は林立する高層ビル、そして池をかな庭、而もそれが日本人として一番大切にしなければならない、そして必至にそれを守っていなければならない、そして必至にそれを守っている数少ない人々の貴重な場所でもある中庭、私はお楽が置かれている位置が、いつもそのように思われてならないのです。

吉原佑。 古原のお女郎のこまごまとした心情を画いた長唄

す、すががき。出店を知らせるお茶屋の三味線が重なって織りな

って明われる清元北州。 店も同様に飾り立てるので背中合せの松飾りとな自分の店に向って立てる松飾り、それが向い側の

心情。

の経過を表す見事な描写が美しい曲で現してあり山姥には待人の来るのを畳にかげる日の傾きに時

曲者同様、その時代の生活と人の世の情けの中へ情緒渦多ぎみの私は、演奏していると作詞者や作

をツッ走る自動車同様、 最近は矢張り高速道路 す。

かならないものかと独り気をもんでいます。子供の頃聞いた曲奏とは大分違っています。る演奏者と付き合わされます。の時代のような大らかさは望まないまでも、かならないものかと独り気をもんでいます。

子供の頃から父(五代目福原百之助)に小鼓・ 大鼓等を習い、中学の頃より矢張り父から笛を教 大鼓等を習い、中学の頃より矢張り父から笛を教

しながら絵を画く事が楽しみのようでした)。 しながら絵を画く事が楽しなのようでした)。

演奏が集中されました。

がすのにも一苦労する時代がありました。 の曲はどの調子の笛で吹いたらいいかと、笛をさ

お藤様ででは一番がとのコンス

福原百之町

とのコンチェルトも、やらせて戴きました。では一番始めに経験させて戴きましたし、交響楽では一番始めに経験させて戴きましたし、交響楽

その後太八君他、優秀な若手笛吹きが出て参りましたので再び伝統音楽にもどり、後継者育成にたら音楽集団に入ってもっと笛の可能性を試したかったと思います)。

が解りかかった様に思います。 出して五十代に入りやっと 笛の心 というもの

な気がしてきます。

泉だと思っています。
全て自分の心の欄につながっているものと思いま
全て自分の心の欄につながっているものと思いま

もの貧しさが感じられます。
心の貧しさが感じられます。

切ですが、シルバーシートを指定されなくとも、もとより総合芸術ですので助け合いの精神は大

思うのですが…… こんな考え方は矢張り年寄り思うのですが…… こんな考え方は矢張り年寄り思うのですが…… こんな考え方は矢張り年寄りに少し足を踏み入れた証拠でしょうか。

暴走族が聞いたら、それでも遅く聞えるかも知が廻転ちがいのテーブを聞かされたような手事でが廻転ちがいのテーブを聞かされたような手事で

れませんが……。

守り通して笛を吹き続けたいと思って居ります。このような時代に、私はあくまでも情緒過多を

ベルリンの日本音楽集団

の認識は私にとって相当に苦しいものだった。こ ていないし、それを据える訓練も出来て居ず、そ 接しない島国の中にいる我々日本人は「日本人と である一私」を基に組立てられなければならない。 認識だった。ピアニストとしての土台も、日本人 もなくのっぴきならぬ存在としての「日本人」の ということであった。それは否定的でも肯定的で は何か?日本の本質とは?」と考える習慣ももっ 仲々面白いことであったが、と同時に隣国と境を 個人主義にのっとった生活をしているヨーロッパ 何を一番感じたかというと、「私は日本人だ。」 てしまったのであるが、さてヨーロッパに行って してヨーロッパでの勉強から初まり、ヨーロッパ ッパに生れヨーロッパで発展した音楽をやる以上、 の人達の在り方が、その認識を私に強要したのは での音楽家という経過を経てずっと今日まで続い ヨーロッパでの勉強は欠かせないものである。そ 私のヨーロッパ歴も長いことになった。ヨーロ 私はベルリンで初めてヨーロッパに

象を与えてくれたのどった。方達を迎えたのであった。方達を迎えたのであった。方達を迎えたのであった。

肌に感じるのは本当に嬉しいことだった。 象を与えてくれたのだった。 まず私は策前琵琶の緊張した冴えた音や心には まず私は策前琵琶の緊張した冴えた音や心には まず私は策前琵琶の緊張した冴えた音や心には の 機縮した硬玉の様な響きやリズムは、ティムパの 機縮した硬玉の様な響きやリズムは、ティムパの 機縮したできた。何とそれは強靱で豪華なもの だったろう。ここに「日本人の存在」があるのを だったろう。ここに「日本人の存在」があるのを だったろう。ここに「日本人の存在」があるのを がったう。 ここに「日本人の存在」があるのを がったろう。ここに「日本人の存在」があるのを がったった。



室井摩耶子

くさい日本をひけらかしているのと違って、渋い 私たちの前に展開してみせてくれる。それは民謡 音楽会ごとに結実して、何かを座席に座っている 今日我々の意志の表現を托すのはこの楽器とその 変な苦労がつきまとっていることだろう。しかし、 光をはなっている。 ブームだのおふくろの味などといって安易に迂散 音楽と、この道を選ばれた人たちの決意や行動は、 と言えよう。それ丈に「音楽集団」の運動には大 とによって伝統を発展させる術には長けていない た。従ってそういったこと――伝統に対抗するこ 芸事にかけては意識的な変化というのは少なかっ それを確立しようとするが、長い歴史には、特に きこむのは容易ではあるまい。今でこそ日本は と思い、感激したり喜こんだりし乍ら帰ってくる。 会をききに行く。その度に、ああ、やっているな 現代」に眼をむけ、これらを掌握しようとし、 古い伝統のある音楽や楽器に今日の息吹きをふ 私は出来る限り日本でも又「音楽集団」の音楽

しいつでも、どんな伝統の変遷にも堪え、誰にも時にはショー的な要素も要求されると思う。しかこの頃は「音楽集団」も外国に出る機会も多く、

感銘を与える「のっぴきならない存在としての日本、或は日本人」の上にたって華をさかして欲しいと思う。

現代の生活の匂う生きている邦楽に栄光あれと

いわゆる現代邦楽をめぐる雑感

うことです。通常の言語の場合には、美的表現と においてのみ形成され、また変貌するものだとい り立っていると思います。そして、音楽というも おける音言語および音言語法との一定の関係で成 突き詰めて考えると、そのような正しい言語法は は別の次元で、一 の関係において、というより、美的表現との関係 思います。つまり、言語そのものが、美的表現と しか依るべき言語が無いという類の芸術分野だと などと違って、表現としての音楽そのものの中に でも呼ばれうる水準に達している場合には、文芸 のは、原初的な状態においてはともかく、文化と 反映でしかないでしょう。 が、それは、西洋の或る時期の音言語法の好みの な和声法では平行五度はいけないとされています 無いと言えるでしょう。たとえば、西洋の古典的 方について語ることができますが、音楽の場合 ある音楽は、 ある民族の歴史的発展の一時点に 一たとえばてにをはの正しい使

し、音言語がそういう性質を具えたものであるときましたので、これぐらいにしておきますが、もき言語や音言語法については別のところでも書

て、かなり普遍的な新し 活動は、感性とのみ係わ る音言語法の探究を通じ

成り立つものだということです。 成り立つものだということです。 成り立つものだということです。。 成り立つものだということです。。 成り立つものだということです。。 は、音言語法は、声や楽器などの様々な表現媒体 との関係で実現されるとしても、それと、言わば をの関係で実現されるとしても、それと、言わば をの関係で実現されるとしても、それと、言わば をの関係で実現されるとしても、それと、言わば をの関係で実現されるとしても、それと、言わば をのは、そのような表現媒体と一応は相対的に独立したところで うな表現媒体と一応は相対的に独立したところで ものまる。

表楽器に重要な役割りを担わせる今日の音楽に を様々な傾向や様式のものが有って、なかなか一 なくとも僕にとって魅力の有るものは、どうも、 西洋のミュシーク・サヴァントへいわゆる芸術音 がは、それとかなり親しんだ人たちの手に成るも ののようです。僕は作曲家の経歴をいちいち知っ ののようです。僕は作曲家の経歴をいちいち知っ



戸口幸策

そのように思われるのです。

このようなことを言うと、人は、僕が一応西洋音楽の歴史の勉強などを業にしている人間なので、 音楽の歴史の勉強などを業にしている人間なので、 ・判断するからだろうと言われるかもしれません が、僕がはじめて西洋のいわゆるクラシァク音楽 を聴いたのは、一八歳ぐらいの時のことで、それまでは、小学唱歌などのいくらかの悪影響を別とまでは、小学唱歌などのいくらかの悪影響を別とまでは、小学唱歌などのいくらかの悪影響を別とすれば、かの小泉文夫さんからも美しがられるほと、西洋音楽と接すること無く成長しましたので、 のものは、あまり西欧的になっていないと思います。

新しい襲いをもって立ち現われているという面も、やはり民謡などを、基本的には西洋風の合唱も、やはり民謡などを、基本的には西洋風の合唱も、やはり民謡などを、基本的には西洋風の合唱を、やはり民謡などを、基本的には西洋風の合唱を、やはり民謡などを、基本的には西洋風の合唱を、やはり民謡などが行なわれているように思われます。

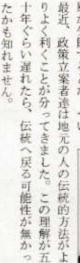
じて徐々に姿を現わしながら、表現媒体を捨象しむのでしょう。勿論、それらのことがうまく行なものでしょう。勿論、それらのことがうまく行なものでしょう。勿論、それらのことがうまく行なもまた音楽の重要な要素のひとつに違い有りませんが、やはり、表現媒体と密着した音言語法を通んが、やはり、表現媒体と密着した音言語法を通んが、やはり、表現媒体と密着した音言語法を通して徐々に姿を現わしながら、表現媒体を捨象し

音楽と伝統

近頃の民謡ブーム、現代邦楽の成長などを証拠 に、日本人の伝統に対する興味が高まる一方だと た切だろうかという声も聞こえます。民謡ブーム 大切だろうかという声も聞こえます。民謡ブーム 大切だろうかという声も聞こえます。民謡ブーム では大切な では、日本人の伝統に対する興味が高まる一方だと というがという声も聞これます。

っています。例えば、化学肥料や機械が高くて、 を活べのものがとにかくいいと思う人が多いようですが、その価値が説明出来る人は少ないです。 らいいという考えかたが間違いです。それより、 伝統一つしか無ければ何も選択はできないので、 佐雄などの技術を共存させた方が安全です。一つの例 に、インドネシアでは西洋の科学的農業が伝統的 に、インドネシアでは西洋の科学的農業が伝統的 に、インドネシアでは西洋の科学的農業が伝統的 に、インドネシアでは西洋の科学的農業が伝統的 に、インドネシアでは西洋の科学的農業が伝統的 に、インドネシアでは西洋の科学的農業が伝統的 に、インドネシアでは西洋の科学的農業が伝統的 に、インドネシアでは西洋の科学の書とが明らかにな 最近は西洋の方法に制限があることが明らかにな

> 風が失敗するとか。つい は自然環境によって西洋 はいないから労働集約



捜しています。
捜しています。
関治時代から日本は西洋の哲学などにヒントをを求めたものの、今は逆に西洋が現代企業化社会の悪魔を追払うために東京の哲学などにヒントを

への冷淡な軽視の証拠です。
への冷淡な軽視の証拠です。
から災害は起らないでしょう。だければ楽になったら災害は起らないでしょう。だければ楽になったら災害は起めないでしょう。だければ楽しないですか。

でも、ただ二つ以上の伝統が共存するだけでは

デビット・ヒューズ

付も投に立ちません。色々な伝統から適切な部分 何も投に立ちません。色々な伝統から適切な部分 だけを取入れるべきです。芸術・美術の場合は適 だけを取入れるべきです。芸術・美術の場合は適 だけを取入れるべきです。作曲家に言わせれ ば、楽器の本質が違うとか、洋楽に圧迫された邦 変を先ず解放せねばならぬとか言うでしょう。だ が、もう西洋の音階、和声法、声の発声法などを 自由に取入れたんじゃないですか。和洋楽器を両 自由に取入れたんじゃないですか。和洋楽器を両 方使う曲でも、混ぜ合うより両立する場合が多い のですへ武満「ノベンバーステップス」、三木「春琴 れた世界」、宮下秀冽の「瀬戸内」など、石井真 れた世界」、宮下秀冽の「瀬戸内」など、石井真

なくてもその知識)を守りながら外の文化から学くなるに伴なって、各文化が自分の伝統へ適用しこの世界が交通・通信改良や経済関係で段々狭

MRI RECORDING

演奏会・発表会の記録・録音 舞台音響・音楽・効果音の編集・再生

東京都世田ケ谷区赤堤3の34の22 (〒156)

日本中継録音株式会社

TEL 03-321-9 6 2 9

琴造り

くらもち

としめも致します

二十十十三粒粒粒

龍勝

電話〇四七一・六三・三八六四千葉県柏市豊住五ノ二ノ二十一

けません。メディアを通じて力のある音楽タレンすようになる今日、外の国の伝統を軽んじてはい要するに、日本人が日本の伝統を尊敬して生か言えるでしょう。

近が強いのに、他国の文化を真似る時は殆んど欧

ぶべきでしょう。特に日本の場合、アジアとの接

アジアやアフリカの音楽を軽蔑する傾向を持つと米でしょう。日本の作曲家が洋楽を尊敬し過ぎ、

ら如何ですか。

(民族音楽研究家)

ら如何ですか。

(民族音楽研究家)

3

53

53 年9

53

年 12

月発

春) 勧進帳/芸術祭

邦楽界の新しい七団体

両学会沖繩でドッキング

日本歌謡学会 白田甚五郎 東洋音楽学会 片岡 義道 正派音楽院(筝曲学校)訪問記

吹いて行く 横山勝也 音楽 遠山静雄



六段/邦楽家死の謎

生まれ変わったらどうする?(演奏家の巻)

世阿弥の遺跡 カラーページ

六段の解明と鑑賞の夕べ 尺八の実用理論

ドイツで開かれた日本音楽のシンポジウム 江戸時代の邦楽批評の一例「素人歌三味線評林」 芸大・正派・育成会[試験問題と募集要項]



現代邦楽

生まれ変わったらどうする?(邦楽研究家の巻) 青少年芸術劇場の邦楽 筝・三味線の絃―糸引きの里を訪ねて-義太夫節についての《座談会》

人間国宝シリーズ 杵屋栄左衛門氏 関西邦楽だより 井野辺 潔



道成寺もの一名曲のルーツー

戸部銀作/平野健次/星 旭/ 矢野輝雄/橫道萬里雄

小説に現れた尺八 岡部直裕 正月と邦楽 竹内道敬/富田 宏 邦楽コンクール便り 邦楽放送についての《座談会》

連

載

田辺尚雄思い出ばなし 田辺尚雄 日本音楽の歴史をたどる 吉川英史 邦楽用語辞典 蒲生郷昭 私の選んだ本とレコード 小島美子 長尾一雄 星 旭 松の葉(三味線組歌注解) 國學院大學歌謡研究会 稽古場めぐり -16号より新連載-

何年 間 記 L 購 1) 円(送 送り 明希 萤 共 方

〒105 東京都港区 虎ノ門 | 丁目 | 9番 | 4号 邦楽ビル2F 株式会社邦築社 Tel. 03(591)7271(ft)

=

52 春の総合定期演奏会

笛 | 横山靖史(客演) 〔 尺八 Ⅰ 〕福田輝久 〔 尺八 Ⅱ 〕田嶋直士 邦楽器のための――高橋雅光

(三味線)養田可郎 等Ⅰ]吉村七重 《等Ⅱ]田嶋恵美子 (琵琶)田原順子 [十七絃] 木村玲子

打楽器」堅田啓輝·高橋明邦

指揮」田村拓男

まゆだせのうた 長沢勝俊作曲

「尺八」坂田誠山 「筝」白根きぬ子

坐案(初演) [三味線]杉浦弘和 笛) 横山靖史 [尺八丁] 三橋貴風·米沢浩 [尺八耳] 藤崎重康·竹井誠 等Ⅰ」花房はるえ・熊沢栄利子 (等Ⅱ) 流田美智子・田嶋恵美子 永瀬博彦作曲 (琵琶) 田原順子 一九七九年日本音楽集団作曲賞受賞作

十七絃」宮越圭子・本奥楠志子

打楽器」尾崎太一・馬坂昇

(指揮)田村拓男

- 邦楽器のための

心

律を奏でた後、篠笛が陽気でおどけた表情を見せます。最後に薩摩琵琶から等・三 絃・打の生々とした躍動的な演奏が続き、再び悲しみを語るかのように、尺八が旋 粒へとテーマが移動しながら悲しみの中へ沈んでゆくような心を持って鮮かに終り この曲は、悲哀をこめた薩摩琵琶でゆっくりと始まり、調子の良い祭太鼓に管・

と快活な喜びの表情が表わされています。 このような緩急の繰り返しと日本の楽器の音色の変化によって人間の影痛な呼び

作曲者は「多くの悲しみの心を持った、すべての人々にこの曲を捧げる」と述べ

都市センターホール 五月八日(火)午後七時開演

四、四群のための形象 三木稔作曲

2. 居機いき [篠笛]横山靖史 [竜笛]宮田耕八朗 3. 曲で生 1. 文様系念 (筝)野坂惠子·矢崎明子 (客演) (細棹三味線)杉浦弘和 (太棒三味線)坂井敏子 (琵琶)半田淳子 [十七絃]菊地悌子(客演) 〔尺八〕三橋貴風·福田輝久

「打楽器」尾崎太一・高機明邦

4. 横(2)

邦楽器のためのシャコンヌ 、ひちりき 」大窪永夫(客演) 〔笛〕横山崎中 安達元彦作曲

五

[尺八丁]宮田耕八朗·藤崎重康 [尺八Ⅱ]田嶋直士 [尺八Ⅲ]坂田誠山 細棹三味線〕太田幸子 【太棹三味線】坂井敏子 〔地唄三味線〕花房はるえ

琵琶 〕 半田淳子 〔胡弓〕 駐地慶司

打楽器」尾崎太一・堅田啓輝・高橋明邦・黒坂昇 十三絃筝〕吉村七重 (二十絃筝)木村玲子 (十七絃)宮越圭子

「指揮」田村拓男

ています。

|演奏時間 | 約十二分半 □作曲年。一九七六年 □初漢=一九七七年五月成40定期謝務会

(創野和子記)

□第二三作曲公募一位「日本古来集団作曲賞」受賞作

宝ゆだ宝のうた

られています。私は、先日テレビで観た「おかいこさん」と寝起きを共にしながら レコードのジャケットに、正月の青空に映える、白、ビンクのまゆだまが美しく飾 豊かにできるようにねがって行われる行事です。この"まゆだまのうた"の入った 。まゆだま。とは、小正月に餠や団子を玉にして木の枝につけ、その一年、繭が

れます。 事に育んできたかという知識は、実際のところ今ではマスコミが手取り早く提供し かいこのはき出した糸を紡ぐ老女の、寡黙な姿が忘れられません。 が、私たちの中に眠っているこうしたものへの讃歌を呼び覚ましてくれることです。 てくれるにすぎません。しかし、幸せなことは、長沢勝俊のはき出す尺八や筝の音 今回の演奏は米国より数年ぶりに帰国する白根きぬ子と坂田越山の組合せで行わ 日本人が自然と対峙し、人間を豊かにしてくれるものを、祈りをこめていかに大 (霜島素子記)

□作曲年と一九七三年

□秦嘴 古詞拉子

□初演=七二年 (尺八・宮田耕八朗 等・吉周紘子) □時間=約八分半

種類の異なる楽器の組み合わせによる合奏の、一様式をいいます。 學薬とは、十七世紀の半ば頃、魏九官が日本に伝えた明楽にあって、十人前後の

作家が後ろへ回ってしまうということがありがちです。楽器の個性はもちろん尊重 おりません。又、邦楽器のもつ雰囲気や表現力を過信する余り、それらに押されて しなくてはならないのですが、そういった楽器に対する甘えを警戒しました。 日本の伝統音楽の多くは、文学や舞踊など、音楽以外のものと結び付きがちです そういった標類的要素や象徴的な意味というものは、この曲の中には含まれて

旋律もそれらの音を中心として、いわば刺繍音的な動きを主とし、跳躍的な動きを できるだけ避けて見ました。 の秩序が決定され、一定の方向が生じます。そこで中心音をGとDに定めました。 三蔵を本調子に合わせて、その開放絃を下からD、G、dとすれば、そこにある種 音組織、旋律、リズムやテンボといった具合に楽想を発展させて見ました。例えば、 作曲に当っては、まず各楽器の機能や奏法を考慮し、それによって導き出された

「編成。今回は尺八群と母群がダブルです。

律の綾を織りなします。第二群は、篠笛、竜笛、尺八長短といった管楽器の四重奏。 的内容を想起できるよう配慮され、日本の楽器の音色の変化を楽しませてくれます。 第一群は、筆群の三重奏。筆Ⅰ・筆Ⅱ・十七絃が、アラベスクのように美しい旋 鮮やかな響きの表題がつけられています。このシンメトリックな表題からも音楽 この曲は、あや〈文様〉、いき(居機)、くせ(曲)、とう(精)といった四つ

> ます。第四群は打楽器の二重奏。剣の達人たちの真剣勝負のように、 いった気迫のこもった演奏を聞かせます。 スケルツォ。楽器の個性、音色を生かし超俗でゆったりとした雰囲気を表現してい ます。第三群は、細棹三味線、琵琶、太棹三味線の三重奏。曲舞とか曲者に通じる 力強い男性的な荒々しさをもつ曲。拍節的であるが迫力ある息遣いが緊迫感を増し 鶴野和子記 トオッ」と

□作曲年。一九六七年及び六九年 □委嘱。居機、曲はNHK委嘱

のための形象」としては一九六九年六月第九回定期で初演。 □演奏時間=合計約二十二分 □初演= □三醇のための形象」として揺機、交線、棒は一九六七年十一月第六回定期で、「四群

邦楽器のためのシャコンヌ

えた……、この発想が原点となってこの曲を書いたと作者は述べています。こう言 わず、音楽が圧迫された庶民の間から生まれたという共通点に該当します。 師たちの身分は高くなかったことは歴史的にも確かに言えることで、洋の東西を問 われてみるとこの直感は奇妙に思えますが、雅楽を聴く人が宮廷人であっても、楽 雅楽を聴いた時、「これは奴隷の音楽だ!」と直感し、それが不服の呼びに聞こ

躍動、爆発、すすり泣きへと展開する、いわゆる"格調の高い世界"とは別の音楽 □作曲年。 九七一年 □番囑=NHK □初演- 九七一年十一月NHK・FMで放送初演 の世界と言えるでしょう。 きが再び現れ終幕となります。あくまでも底辺にへばりつく土臭さと、その中での き継がれてきた打楽器の刻みが、ジャム・セションのごとく爆発し、やがてひちり alla Classique)尺八とからみながら進みます。そして一部から地鳴りのように引 部、そして二部は尺八の導入につれて三味線群が古典の手を模して(a piacere. ひちりきに導かれ等群に提示されるリズムを変奏しながら全楽器が展開する第

七二年に舞台初渡。□時間・約二十三分 □編成=今回は尺八Ⅰがダブルです。

■今回の客演者の紹介

さんは現在東京芸術大学講師。お二人とも日本音楽集団団友である。 んは六九、七八年に十七絃リサイタルを行い、現在、東海大学芸術学科講師。 九五七年より七五年六月まで「邦楽4人の会」のメンバー。現在はフリー。 菊地さ 秦地懐子・矢崎明子の両氏は共に東京音楽学校(現芸大)出身。宮城会所属。

ひちりき、心で活躍。ウライタナル弦楽合奏団主宰。 大窪永夫氏は宮内庁楽部勤務。芯、筝、左舞、セロを担当。現代邦楽の分野では

定期演奏会 邦楽器と綴る四つの物語 Four tails with Japanese instruments.

秋浜悟史 六月八日(金) 作・演出 午後七時開演 伊藤惣一 青山タワー・ホール

ごろごろ関下の冒険(改訂初強) まぽろしの米 作曲 しゃみ猫博士の冒険 黄金花咲く(改訂初演) 三木稔 二十絃筝演奏 作曲·構成 杉浦弘和 舞踊 花柳寿南海(客演 作曲・構成 宮田縛八朗ほか日本音楽集団管楽器奏者 構成 尾崎太一ほか日本音楽集団打楽器奏者 野坂恵子

制作補・内田とも子

る声。尺八の音がやまず語りかけ男を眩惑する。しゃみ猫博士の冒険――レコード 振りの昔を誘いだす。小さな横穴の闇へむかってノミ打つ山師の背に、近づいてく 黄金花咲く ――「かぐら一九七六」の中の一篇であった。南部牛追い唄が、遠い金 に「冒険シリーズその二」と銘打たれ、古具あの手この手集と言うべきか、パロデ 世界。ころころ閣下の冒険 ――七七年伝統音楽演奏会「長唄・囃子その一」のため げた奥さん探しの旅に出る。 現形にほぼ定着した。下座音楽の情景描写の手に大いに頼って、しゃみ猫博士は逃 「日本の楽器入門」三味線のなかま篇のために七二年着手。舞台で統演をかさねて、 一十絃箏との共満は、七七年「第七回野坂恵子リサイタル」で実現した。天明の大 を恐れずというべきか。一角仙人ごろごろ関下、親子共々の落第篇。(秋浜悟史) 父と母と子の逃亡記。 食える力のある者が、力のない者を食う、まさに劇の まぼろしの米―― 詞は戯曲へおもて切り〉による。

秋浜悟史、伊藤惣一、そして日本音楽集団

深いところでは、どうしようにも消すことのできない怒りが渦まいていたりする。 あまる語呂を駆使して、あばれまわった、イジメッ子のやさしさが彼の本質であり、 住んで、雅やかなコトバの研究中であっても、東北の自然と人間の中に育ち、あり のまにか挑撥にのって、彼のコトバの世界にひきずりこまれてしまう。今は宇宙に 作者・秋浜悟史のコトバは、どんなに遊んで聞えても、どんなにふざけて聞えて 何かに向っての挑戦の表れだ。聞く者は、笑ったり反接したりしながら、いつ

> 多かった。彼のなにげなさは、実は発音する一音、一音の選択にも厳密に対決する 何の気負いもなく、楽しげに口にしているかのように表現し、聞く者はそのなにげ ウルサイまでのシッフコさの上に築かれている。 を受賞した岩波映画の<絵図に偲ぶ江戸のくらし>は「語り」の力を絶賛する評が なさのしたたかさに一種の快感すら持ちながら聞き惚れる。七八年度の芸術祭大賞 朗読者・伊藤惣一は、この複雑な感性と意味をもった作者のコトバを、これまた

前のことだろう。 この二人が、日本音楽集団と共に仕事をすることになったのは、 もう十年以上も

三木稔の作曲と日本音楽集団の演奏は、芝居の伴奏音楽というような。部分。では しいが、その舞台を音楽上で開花させた三木稔は、 あさや作<日本の教育・一九六〇>などを衝撃的に発表していった記憶は今も生々 奏者は演じながら演奏し、俳優たちもそれに刺激されて唄っていた。その時伊藤惣 既になく、"音楽演奏"というジャンルを超えた舞台表現となっていた。集団の演 と三十人会の人達によって語り、明われた<子喰いの明>は後に野坂恵子リサイ 秋浜が「劇団三十人会」に拠って芝居を演出し、 六九年、「三十人会」上演の秋浜作/おもて切り/は私の演出だが、その頃には 日本音楽集団をも誘った。 自作へ東北の四季〉や、ふじた

業を開始しはじめていた。 のコトバの表現とともに、。演劇。のジャンルを超えて、音楽集団との個別の作 おそらくその頃からだろうか、秋浜悟史の独特なコトバの表現の世界は、伊藤惣

タルの<まぼろしの米>として形を変えた。

うとしているふしがある。今回の発表は、そのような壮大な試みの なろうとしている。 日本音楽集団も、新らしい音楽を求めて、今までの "音楽" のジャンルを超えよ 一つの結び目と 尚村存意)

伊羅黎一氏



秋浜悟史氏

どりを研究する会」で古典舞鞴、創作舞踊を 六六年のリサイタルをはじめ、数十回の「お となる。六六年、芸術選賞・文部大臣賞受賞 花柳寿南海氏(客演)一九四二年花柳流名取

間社主催の舞踊公演に 発表。国立劇場、各新 際演劇協会《I・T・ ヤーセンター講師。国 多数出演。朝日カルチ



演奏家による作曲へのアプローチその

Musicians as composers: several approaches

七月六日(金) 午後七時開演 青山タワー・ホール

演奏家の作曲への挑戦第二弾です。

ました。しかしボビュラー界や素人参加の作曲番組を引き合いに出すまでもなく、 と作曲との分業化が進み、それぞれが専門化して任せ合うことが当然のようになり 作曲というものは元米、だれにでもできるものだと思うのですが、最近では演奏

田村拓男

のゆくものを発表したいと思います。 りませんが……)。しかし甘えは禁物です。団内で厳しい試演を重ねて、皆の納得 ご両人はいつも大きく抱きかかえてくれます。皮肉の二言三言は覚悟しなければな このシリーズを推進する時、長沢、三木両作曲家の目が気になりますが、結局は (田村拓男)

うであったように、もう一度演奏家が作曲を身近に引き寄せることを考えてみたい かり、作曲の能力の芽を自らつみ取っているのかもしれません。私たちの先達がそ まれていることがあります。私たちもつい現状に流されて努力をすることから遠ざ 作曲を必ずしも専門としない人たちの中から時にすばらしい感覚を持った作品が生

と思います。将来指導的な立場に立つであろう団員には、むしろ積極的に挑戦して

もらって幅広い領域を作ってほしいと念願しています。

・銀座場居堂

チケット取扱い=渋谷東急観光プレイガイド・新宿チケットビュー

n

お問い合せ・電話予約=〇三・四〇九・五三七四〇日本音楽集団

※団体割引・特別指定席は集団事務局でのみ扱います。

の友の会会員募集

入場料

● | **八〇〇円**

特別に座席の指定をお求めの方には一〇〇〇円の追加で確保をします。

団体割引 一三〇〇円(十人以上の団体

ので、ご希望の方は次の要領でお申し込み下さい。 シリーズを一括して割引値で予約できるA会員を設けております。入会は随時です 日本音楽集団では、演奏会などの催しのお知らせや(B会員)、定期コンサート・

費は三公演のチケット代を含み半年で五○○○円、または六公演のチケット代含み 引と座席確保、その他の催しのお知らせ、機関誌「邦楽現代」(年二回刊、定価三 A会員・定期コンサート・シリーズ半年の三公演、又は一年の六公演のチケット割 ○○円)、広報誌「邦楽現代ニュース」 (随時発行、定価五十円)の無料進呈。会 年で10000円。

現代」、広報誌「邦楽現代ニュース」の無料進呈。会費は一年二〇〇〇円。 B会員・定期コンサート・シリーズ及びそれ以外の催しのお知らせ、機関誌「邦楽

申し込み方法――(1)各演奏会場で。

(4)郵便振替=振替番号、東京 8-73659 日本音楽集団宛。友の会入会希望と明記。 ③銀行振込=東京銀行渋谷支店普通租金 030-074543 日本音楽集団友の会宛。 ②現金書留=住所、氏名、電話を明記し、会費を添えて日本音楽集団へ。 所、氏名、電話、会費を銀行振込したことを明記して別便にて事務局へ郵送。

> になればどなたでもこの合奏団に加われます。流派などは問いません。 まって合奏を楽しむグループです。友の会A会員(東京)、又はB会員(東京以適 ■『友の会合奏団』――日本の楽器を演奏するアマチュアの方々へ――毎週一回集

合奏を楽しんでいます。ご希望の方は集団事務局までお問い合せ下さい。練習場は 組)、毎週火曜日には二十数名の方が午後六時から八時まで(グループ名=たあく) 池袋の近所です。 東京 ――毎週土曜日には三十余名の方が午後四時から六時まで(グループ名=星

電車十三駅から歩いて五分ほどの長安寺です。詳細のお問い合せは、 話〇七七四九一四一三〇三四まで。(グループ名=腓 すでに三十余名の会員がおり、練習日は土曜あるいは日曜の午後で、 関西――関西方面では昨年合奏団が発足し、今年の一月から活動を始めました。 大崎じゅん電 練習場は阪急

九六十二三一四九六三まで。 名古屋――名古屋方面でも結成の動きがあります。 お問い合せは、

望をお持ちの方、講師を派遣したり、共催に応じる準備もあります。 演奏指導や新しいやさしい曲の紹介)あらゆるテーマで講習会を開きたいという希 地方で集中的な講習会をお持ちになりたい方 現代邦楽、 邦楽に関する(特に、

長沢勝俊

を担う人たち。を紹介してきましい邦楽を担う人たち。を紹介してきましい邦楽を担う人たち。を紹介してきましい邦楽を担う人たち。を紹介してきましい邦楽を担う本音楽集団代表である長沢勝家であり日本音楽集団代表である長沢勝ないことも、

生み出す作曲家としての自分勝手なイメ 実像にぶつかり、どうもすぐには作品を するのに深夜まで討議する人、という現 をしたり、団としての色々な問題を解決 演奏会の時は舞台裏で楽器運びの手伝い 入りました。しかし真近に見た作曲家は 勝俊とはどんな人物だろうと興味深々で 別の面からお話を伺ってみました。 れるのかを探りつつ。集団の代表 とした日本人の心を描く長沢作品が生ま で、今回はどうして民俗芸能などを素材 ージにはぴったりしませんでした。そこ メロディを朗々と歌う音楽を作る長沢 私が集団に入ってきた時、 あんな美し とは

なんて聞かれることがあって、ふつうのなんですか」とか「夜中にやるんでしょ」るんですか」とか「夜中にやるんでしょ」みたいですね。ぼくもよく「いつ作曲すみたいですね。ぼくもよく「いつ作曲すみたいですね。

たいんですが。 そんなことはないんですが。

りなくなって、若くて夢多き年代でした そのうちただ聴いているだけではもの足 少女」とか、ショバンの「別れの曲」と ら逆に他の人にあってもぼくにないふる から、その頃から作曲家になりたいと思 Pを借りて聴いたり、「オーケストラの ね。たまたま友だちに音楽好きがいてS も専門的な勉強などできなかったんです がなかった。ですけど当時戦争中でとて り、本服から山田耕筰の和声学の本を質 っていました。それで、合唱団で歌った いった音楽映画を見たりしていましたが、 で民俗芸能にも興味を持っているんです。 さとにあこがれが強いようですね。それ 強したりしていました。 やっていた作曲の通信教育で和声学を勉 ってきて勉強したり、内田元という人の 若い頃には音楽が好きで好きでしょう ぼくは東京生まれの東京育ち、ですか

団プーク」。ブークでは子供たちに人形をたかったので、入ったのが「人形製ならなかったので、入ったのが「人形製ならなかったので、入ったのが「人形製

さらいませてうっれるかはい

1974年東南アジア公演で

三木稔氏(左)

の音楽も次々に作曲し始めました。

データは古い歴史を持つ劇団で芸術に 対する明確な思想性を持った団体だった とがれていただけだったけど、ここでぼ くは人間の生き方のようなものを初めて 学びましたね。

している礎になっていると思います。仕決定的な影響を与え、今こうやって活動でいて作曲を学んだのが、ぼくの人生について作曲を学んだのが、ぼくの人生に

事と並行して、ーモニーや対位法、アナリーゼも一応マスターしていたわけですリーゼも一応マスターしていたわけですりーゼも一応マスターしていたわけですった思った時につすと行き詰ってしまいたと思った時につすと行き詰ってしまいった場所では、それで音楽を作るということはどういうことかを楽を作るということはどういうことかを楽を作るということはどういうことかを楽を作るということはどういうことかを当に自分の言葉で自分のことを気にして他人が何と言おうと人のことを気にして

品を生みだすことになったんです。十二 のがオーバーラップして、今のような作 いうものか……、今話してきた色々なも も清瀬先生に言われてきました。そうい いることか。 できないと思いましてね。 結局抽象音楽では自分の言葉として表現 音技法で作曲してみたこともあるけど、 ぼくの場合、現場からたたき上げて行 ほとんどそういうことばかり何年間 自分の好きな音というのはどう 先生の卒直な苦労話を含め

得するまで自分の音を考える、というこ いるんでは絶対だめで、自分の音で自分 そしてそれがどんな勇気の 自分の納 らね。 ると、記録映画を作る人とか演劇の人と ものを探すのに長い時間かかりましたか 音楽にまず飢えていて、それから自分の ころついた頃には読み書きのできるよう 幸せだったと思います。今の人はものご ができた、その中でぼくの音楽家として た一流の人たちと一緒に仕事をすること に音も身についているわけで、ぼくらは の目は費われてきたわけで、 ひとつの芸術にりっぱな見識を持っ そういう点

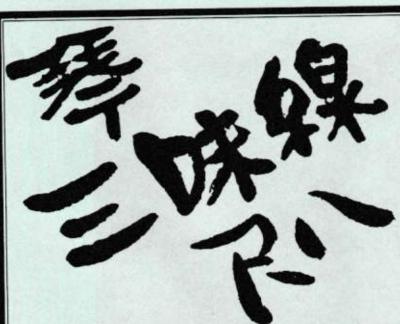
節たりともおろそかにしない、

の本心を表現する、それには

ったわけですけど、今こうして考えてみ

から、どうしてぼくの作品が生まれたか、 ともありますけど、もちろん昼間だって しているつもりです。夜中に作曲するこ 行きましたけど。又、 ぐにできたわけではなくてね、 せる三つのバラード」は飛頭に行ったからず の作品を作ってきたわけです。 いけれど、そういう延長線上で自分なり と聞かれてもそのものずばり説明できな めに謡曲を習ったり、それなりの努力は 長い人生で色んなことやってきました 「遡河」を作るた 飛騨によ もちろん

供たちと接し、 が何えました。(レポーター 霜島素子 いう長沢さん。お話しの中から現在活躍 わるすべての人たちの先輩としてのお話 している長沢像がくっきりしてきたよう に思えます。作曲家だけでなく音楽に携 ブークと一しょに各地を回りながら子 民俗芸能にも親しんだと



邦楽堂ローン・

ださい 24回ま

- 支払い別。在林三味線
- **東金価格50,000円 (一括私い)** 第金5.300円 - 月~5.300円×10萬・10ヶ月
- 撃・三球艦、全品1年間無料保証。 全登品のアフターサービスについては当社市社 が責任をもって行います。
- ■16別注文条ります。例期50日 (世界時間/19 MAM~7 MPM



サービスの店

邦楽

- 第日の 6日 東 (10 D 34 40) 第日の 6日 東 (1 日日) 34 40) 第八王子ハイフ(1 日日)
- 41 (0047)

として活躍しています。 猛者の集まりである打楽器メンバーの頭 団員からは嫉妬されることしきり。一九 とても優しくてもてるので、他の男性の ばお客さんの目をパッと引き、女性には 七一年に集団に入り、それ以来個性的な 集団で一番ダンディな男。舞台に乗れ

を日本とアメリカの違いなどを中心に何 公演の一員として参加。その時のもよう ってみました。 して多忙の人。最近はアメリカへ歌舞伎 集団以外では歌舞伎や長唄の囃子方と

それと、特にニューヨークは気候が悪く 見ているんです。それを聞いていて笑っ 子」。向うの公演では観客はヘッドホー と三カ所で、出し物は「俊寛」と「連嗣 三郎氏や中村富十郎氏らの歌舞伎一座と だかやりにくかったことがありますね。 る人と二種類の反応がかえってきて、何 たり反応を示すものだから、日本語わか ンを通して同時通訳の話しを聞きながら 共にアメリカへ行ってきました。ワシン **尾崎**――今年の二月に一ヶ月ほど中村勘 大雪で、外と室内の温度差がひどく、暖 トン、ニューヨーク、ロスアンジェルス

> んどん破けちゃう。集団が海外へ行くと 房のきいた室内はすごく乾燥しているの ね。それで三味線などは大変で、皮がど

日本から新しい三味線を空輸していたよ がバンバン破けてしまって、そのたびに たよりも乾燥していたので、とたんに皮 に行ってちょうどいい具合になるように れて皮を少しゆるめに張ってゆき、向う きは、そういう気候の差などは勘定に入 してゆくんです。今度の場合は思ってい





うですよ。一しょに行った藤舎成飯君も 鼓の皮が破けてしまった。 ぼくは太鼓だ ったけど、日本ではあげバチで締め上げ たんに水まいたり、それでもすぐカラカ んの回りに水まいたり、ホテルのじゅう 音が出ないのね。だから、舞台のもうせ カーシという音が出る。そのかわりメリ



ラに乾いてしまってどうしようもなかっ

なっているんですね。 手なら興業主がガッポリもうかるように とにかく力を持っていて、その人がやり お客さんが、この興業主の企画ならおも 業主の名前が一番大きく出る。それ見て ポスターなどでも名前がポンと一番大き しろいから行こうか、と判断するらしい。 く出るでしょ。ところが、あちらでは美 物になる役者が興業のメインになって、 ふつう日本で歌舞伎の公演をすると売り それから日本と違うなと思ったのは、

いけないって痛感しましたね。 まくて、やっぱり音楽はこうでなくては やってきました。あの時は、北島三郎っ うへ行ってぼくが勝手に鼓の手をつけて が入るといいですよって売り込んで。向 鼓なんて入ってなかったんですけど、鼓 とがあります。彼の歌の伴奏にもともと 尺八の人と一しょにアメリカへ行ったこ てとても舞台と聴衆を一体にするのがう それから、以前北島三郎にくっついて

を説明して下さいました。一回、ぜひ彼 の進行とそれにつれてのお客さんの反応 物「俊寛」や「連獅子」についても物語 ります。又、今度のアメリカ公演の出し おもしろおかしく話して下さることがあ ことを、よく軽井沢の合奏研究会などで (当然ですが)、歌舞伎の黒御簾音楽の 尾崎さんは歌舞伎のことに詳しくて

> とその辺の「文化講座」などより何倍も の話術と実演を駆使した一黒御簾音楽講 はないかと思うことができのります。 おもしろいためになるものができるので 座」なるものをやってもらいたい、きっ

間で、どんなことを考えていらっしゃる の多い尾崎さん。現代邦楽と伝統音楽の でしょうか。 集団の海外公演はもちろん、海外経験

うこと。役者の家に生まれて、小さい時 ります。どういうことかというと、簡単 う地域性の上に成り立っているわけです という町の風俗の中から生まれ、そうい 文楽などを見ても、文楽士は絶対に上方 らりっぱな芸が身につくのだと思います。 からこそ今の歌舞伎の水準が保てるとい でなければやれないと思うことがよくあ 界というのは最近こういう因襲的な世界 もあると思いますね。一方、歌舞伎の世 であり、 からああいう空気を吸って生きているか に言えばあのような伝統的な構造がある から他にない多様な可能性を感じると同 ことで評価され注目を受けている。です 住んでいる。文楽は上方のもの、液花 未来図を考えると色々難しいこと 常に一歩先を歩いているという 邦楽界から見れば集団は先駆者

て古典の方と集団とを別のものとして捉 ことだと思うけど、この両方の世界にい ぼくら長唄関係の人に共通して言える

> するとどちらにものめり込めなくて批判 ぼくの場合を言えばどちらの世界にも客 観的な目が働きやすい。というのは悪く えているんではないでしょうか。だから

> > うことがありますね。 的になってしまい、これはまずいなと思

(レボーター

霜島素子

太鼓 神輿

^{株式}宮本卯之助商店

東京都台東区浅草6 03-874-4131(代) もできない気分でした。 えてしまったもどかしさをどうすること いるにもかかわらず、火のかたまりの消 に、そして皆、盛り上がろうと努力して 分変ったため、リハーサルもかなり丹念 ス・コンセルタントエンはメンバーが大 <新八千代獅子><二つの舞曲><ダン 中からただよっていました。大編成の曲 あいてしまったような気分が、出発の車 まったあと、心のどこかにボッカリ穴が 先日の演奏会で一つの区切りをつけてし 日を高崎(一月二十九日)で迎えました。 週間。信州を中心の地方公演旅行の第 定期演奏会に聴衆、演奏者共に燃えて 会ともいえる一月二十二日、二十三日の 創立十五周年と、海外公演の記念演奏

まかし、舞台中央のセリを見付け、〈奔手〉はこれでと、本番は杉舗かセリ上りで三味線を持ってかっこ良く、すっかりで三味線を持ってかっこ良く、すっかりで三味線を持ってかっこ良く、すっかりをかけたくなるような、いつもの集団のをかけたくなるような、いつもの集団のをかけたくなるような、いつもの集団のとかけたくなるような。

ちて聴き入りました。今まで聞いた演奏・ をした宮田の尺八と、毎は野坂の初演奏。 をした宮田の尺八と、毎は野坂の初演奏。

> が春になった喜びを称っているのに対し、 野坂のは春の喜びを待つ祈りのようにも 野坂のは春の喜びを待つ祈りのようにも でした。終演後はほてった顔に、雪が心 でした。終演後はほてった顔に、雪が心 地よくふきつける中を、明日からいよい よ雪の信州路だと覚悟をきめて歩きまし よっ

型一月三十日、雪かげの見えぬ、上天 気な上田へ。ここより信州公演は寒光堂 の中島宗夫氏たちが展方に加わりました。 の中島宗夫氏たちが展方に加わりました。 の半田演奏のへ遡河ン。歌も琵琶もジーンと来る演奏に、あとは花束ぜめ。アン コールには、かつて童話作家を目指した ロールには、かつて童話作家を目指した という、もう一人の上田出身者、作曲の 内田の可愛らしい曲へ風と光の唄〉と、 という、もう一人の上田出身者、作曲の という、もの一人の上田出身者、作曲の をという、までいる。という歌です。長

会館の用務員の方が、今日の会は本当にて以来の入りとのこと。今回の公演旅行でも最も多い入りでした。楽屋には平田のご家族からの、美味しい手作りのご馳走の差入れに、皆大よろこび、いよいよよの差入れに、皆大よろこび、いよいよよの差入れに、皆大よろこび、いよいよのとのでは、市民会館始まっ

汽車の出発時刻が迫るうらめしさ。 ごとも、嬉しいことでした。 型朝、出発前のあわただしさの中を、 型朝、出発前のあわただしさの中を、 型朝、出発前のあわただしさの中を、 という名物ソベ屋へ皆食べたさの一

三十一日長野。地元の佐藤幸宇山氏の 三十一日長野。地元の佐藤幸宇山氏の お世話でお客さんは三曲関係の方が多か お世話でお客さんは三曲関係の方が多か では、一世には、大が道を行く演奏……。 ではくのに対し、後者はひょうひょうと では、のですね。終演後、佐藤氏のご案内で、 教師という山菜料理屋へ……、地元の方 飛蝉という山菜料理屋へ……、地元の方 飛蝉という山菜料理屋へ……、地元の方

筝でこんなに!」と、どぎもをぬかれた

終演後、アルブスの見える温泉宿へ。 終演後、アルブスの見える温泉宿へ。 およいに良い影響を与い合えることを:。 お互いに良い影響を与い合えることを:。 お互いに良い影響を与い合えることを:。 たるせい。人遡河ンへ萌春ンは大ベテランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、ご当地出身の若い福田のランの野坂に、されなか関かになることでしょう。

三日甲府。郷晃氏にお世話になりました。たまたま山梨県知事選挙の日。二階席に中学生を招待したため、演奏中も騒然に中学生を招待したため、演奏中も騒響に中学生を招待したため、演奏中も騒響に中学生を招待したため、演奏中は静かにと何度もお願いしたにもかかわらず、〈華や度もお願いしたにもかかわらず、〈華や度もお願いしたことできない若者への悲しさと怒りがこみ上げ、はげしく退場をせまり、一生懸命出きに来て下さった一階席の一般客から、聞きに来て下さった一階席の一般客から、聞きに来て下さった一階席の一般客から、

今回の旅行から、<ダンス・コンI>

後にふさわしい打ち上げでした。 性軍にしてやられました。カデンファの たがなかなか名案が浮かばず、 カチャカチャの所で一斉に、隠し持って ようと、男性、女性、それぞれ考えまし す趣向で、最後を一段と楽しく盛り上げ 者と、長沢、三木の両作曲家が、おもち の打楽器のカデンツァの終りで、全演奏 いたクラッカーを打ち上げたのです。最 て来ました。今日が楽なので、何かをし やの「カチャカチャ」を一緒に振り鳴ら ついに明

ご母堂、お筝屋さんの田中氏などと会食 ましたが、三木、田村、野坂、半田、奈 半分以上の人がその夜のうちに帰京し 坂井の七名が、地元の膨氏、

> うなことになってしまったことなど、教 がら族に育ってしまったことが、このよ STV& 今日のハブニングについて、小さい時か を共にし、深更まで交流を深めました。 語がありました。 育や、生活のあり方について……等々の レコードを聞きながらの、な

に近いため、東京公演に吸収され、なか 長して行く道が徐々に開けて来ました。 も切れぬもの、お互いに影響し合い、成 べたおそばの味が、それぞれ異った美味 心な支持者が出て下さり、 しさを持つように、風土と文化は切って 二月七日横浜、九日藤沢、は共に東京 各地で支部長になって下されそうな熱 行く先々で食

三橋)、<颯路>は笛が藤崎に、大綱成 歴沢は砂崎の熱心な取り組みで、両方と 〈寿手〉。若い尺八の未沢、竹井、箏の も変る。藤沢は<萌春>(坂田・砂崎) も再びメンバーが変る。それにつれて音 も沢山の方々が来て下さいました。 なか実現できないところ。横浜は三橋、 梅云では久し振りに<孤簪>(尺八、

けて下さいました。又、英城放送から、 作り、三曲協会をはじめ、方々に呼びか 集団のチラシの他に、水戸独自のものを 組に答えて下さり、 一月十七日水戸。田村の熱を入れた取 地元の斉藤幸山氏が、

態沢も<ダンス・コンI>に加わりまし

があり、 意を持たれ、支部を作りたい、又、 多くの方々がお集まり下さり、集団に好 水戸第三高校の音楽の先生中沢氏など、 した。又、終演後の交流会に筆者は不参 れから合奏研究会の参加者の顔も見えま 気分を吹きとばし、最終を飾りました。 に名演、大編成も、出発時のもどかしい こと。<遡河><華やぎ>いつものよう さった由。又、新聞にも宣伝されたとの 諏訪公街の朝、三木に電話インタビニー 加でしたが、斉藤幸山氏ご夫妻をはじめ、 演奏会には三曲協会会長の初見氏、そ 数回スポットとしても流して下

い報告を聞きました。 の発声に興味を持たれたりなど、うれし



半田に納られた花輪の前で 上田公演,

松本のそば屋の前で(前列右が筆者)

参加者

団代表 尺八一宮田耕八朗・坂田誠山・三橋青 音楽監督一二十十 望月太八・藤崎重康 長沢勝俊

風·福田輝久·田嶋直士·米沢浩

打楽器 花房はるえ・宮越圭子・木村玲子 野坂恵子・砂崎知子・吉村七重 半田淳子・田原順子 - 杉浦弘和・太田幸子 堅田啓輝・高橋明邦・黒坂昇

(場所によって出入がありました) 中島隆・米沢浩・竹井誠

楽器係

田村拓男

奈良義實

やさしさ、さびしさ、泥まみれのいやら 日本人の心に共通してフィットしながら う歓喜の春、大いそぎで謳歌する短い夏 強を続け、発足から九年目を迎えた。名 を八回、他に創作オペラ、サマー・コンサ に育つきびしさ、たくましさ、美しさ、 い厳寒の洗礼を受ける長い冬。この風土 も、そそくさと引上げて行く秋、得がた 桜、つつじ、野の草花が矢継早に咲き鏡 い欲張りな。群。これ迄に定期演奏会 しさ等々、全てを音楽の中に兼ね備えた 音楽作品を世に送り出すことを目的に勉 たいなものを少し申し述べたい。 労音)による演奏会等が主な活動である 札幌新音楽集団 次に"群"が形造られて行った動機み 海外公街三回、 "群"は道産子。こぶし、梅、 音楽鑑賞協会(元 枝 現代の日本

代表佐華岡豊は、明治生れの争ひきだが、若き日にシベリウスの交響曲全曲をが、若き日にシベリウスの交響曲全曲をが、若き日にシベリウスの交響曲全曲をが、若き日にシベリウスの変響曲全曲をが、若き日にシベリウスの変響曲全曲をが、大」を実施した。いかにも「音楽を聴いた」を実感と権烈な感動であったに違いない。それは、岡豊にとって現実に西いない。それは、岡豊にとって現実に西いない。それは、岡豊にとって現実に西いない。それは、岡豊にとって現実に西いない。それは、岡豊にとって現実に西いない。それは、岡豊にとって現実に西いない。それは、岡豊にとって現実に西いない。

お館、本屋通いが頻繁になる。 を楽会といえば、イタリア・オペラが 音楽会といえば、イタリア・オペラが けて行った。当時、興味をそそる音楽家 は札幌まで来てくれなかった。又、上野 は札幌まで来てくれなかった。又、上野 は札幌まで来てくれなかった。又、上野 は札幌まで来てくれなかった。又、上野 は札幌まで来てくれなかった。又、上野 は札幌まで来てくれなかった。又、上野 は札幌まで来てくれなかった。といるが、 文化会館が出来た頃と記憶しているが、 アムステルダム・コンセール・へボウ交 アムステルダム・コンセール・へボウ交 アムステルダム・コンセール・へボウ交 アムステルダム・コンセール・へボウ交 アムステルダム・コンセール・へボウ交 アムステルダム・コンセール・へボウ交

是新音楽集团"群"

藤井凡大作曲(二つの領性)を資奏する札幌新音楽集団"群"

す汚れた顔で、華やかなコンサート・ホ 悠動のひとつである。その後、 としか覚えていない。しかし私の大切な ジからではなく、 な建物、雰囲気に目を丸くした。ステー ールへ。北極道では見たこともない立脈 クに心酔していたこともあって、いつの 大きな影響を持たらした。彼がバルトー 本雅夫氏との出合いは岡豊の音楽生活に 美しい音楽を子守順に眠ってしまったこ ーケストラは化け物かと思った。あとは ンと湧き上るような響きを感じた時、 らさまざまの感動の表現方法を追求して 当然「毎四重奏」を考えたくなる。これ なっていた。弦楽四重奏曲を聴くうちに 間にか、私達までバルトークのファンに だ。上野駅に着くと開演三十分前。 地の底からズズズズー・ 作曲家松 5

四百席(補助席含む)の会場で、当日券 にして、やっと、再鎖が望まれる嬉しい 守同人が四重奏曲を書いた。通算四曲目 成というかたちでお目見えしたわけである。 行こうという問葉の姿勢が即ち、群。 演奏者、アドバイザーとしての同人、睡 新しいお客様だ。思い起せば、作曲者、 が三十枚以上も売れたこと。これは全く 作品が誕生。もうひとつのニュースは約 である。 える時期が到来している、と思える昨今 そして "群" の若いメンバーにも、音楽 来たことは事実だし、今後もきっとそう 衆が一体となって、お互いに育てあって する喜びを感知できる感性の甦えりを考 して行けるという確信を得るに至った。 この三月第八回定期演奏会では、川越

育業産とさきてがつくるジャーナリズム

- ●音楽家・舞講家と愛好家が自由 に発言できるひろばとして、ユニ ークな成長をとげつつあります。
- ●日本の音楽の発展の挙ばえを、 ともに考え、ともに育ててゆく、 自由で進歩的な音楽ジャーナリズムの確立が私たちの願いです。
- あなたにとってひとつでも心に とめる記事がありましたら軽なす のよろこびです。
- ●本糖は次のところでお求めになれます 日本交器(銀座店・渋谷店・名古屋店・ 大阪心斉橋店)、丸番日本橋舎・労普会 館書籍センター、美和書店、友好学、他

お問い合せは電話(03) 2 0 0 - 4 9 2 4 日本音楽舞踊会議

〒160 東京都新裕区在人町1-7-3 第2高士電エビル110号 1部450円〒50円 6+月〒共2500円 年間〒共5000円 振替 東京1-65140

一見不必要と思われる細かな点にまで、改良と創造を重 ねてみました。高い完成度を誇る低音楽器の最高級品

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現す るために、楽器の本質を追求した筆

日本音楽集団推薦

東京都世田ヶ谷区赤堤2丁目25-7 TEL (328) 2802

琴光堂の二十絃箏

日本音楽集団 脇役はもちろん

世界各地の聴衆を熱狂させた カーネギーホールをはじめ

日本音楽集団第四回作曲公募についての結果報告

今回は今までの最高数、十の力作が寄せ 若々しい新作がいくつか生まれました。 この作曲公募も今年で第四回を迎え、

楽集団作曲賞には永瀬博彦氏の「坐楽」 と検討が加えられましたが、一位日本音 回は残念ながらありませんでした。 が選ばれ、一、三位に該当する作品は今 たり、全十作についてのていねいな批評 審査は伊福部昭氏と日本音楽集団であ 永樹氏の作品に対する評としては、邦

作品として消化しきれていないものが多 楽器を良く知って書いており、音響構成 全体としての欠点であるということでし い。音楽的に貧困であると言えることが ては、既成の音楽技法をまねし、自分の としての格調も高い。選外の作品に関し いて他から群をぬいたできばえで、作品 オーケストレーションもよく工夫されて

行われます。次回も奮ってご応募下さい。 募の第一位、 す。今春の総合定期演奏会では、今回の 代邦楽のレバートリィがふえてきていま この公募が回を重ねるにつれて新しい現 再演、入選作以外の上演も行っており、 で、一位入選作の初旗だけでなく、その 日本音楽集団ではこれまでの公募の中 位作品の初演と、第二回公 高橋雅光氏の作品の再演が

> 第一位 永瀬博彦作曲「坐炎」 日本音楽集団作曲賞

その後、伝統音楽に興味を持ち、杉浦弘 和に三味線を学ぶ。 音楽大学で作曲を南弘明、池野成に学ぶ。 永瀬氏は一九五一年東京生まれ。東京

奏楽のためのオスティナート」(一九七 エピコ」(一九七六) ロディア」(一九七五) 主要作品 管弦楽 ――「踊りのためのメ 吹奏楽——「吹 一交響叙事詩

日本音楽集団第五回作曲公募

スタンダードな左記の組成に近いものを では日本音楽集団が合奏するときの一番 範囲は、独奏から大きな合奏に至るまで 領で公募いたします。当集団の演奏する 演奏会で上演するための新作を左記の要 に創作の機会を開放し、毎春の総合定期 多岐にわたっていますが、この作品公募 伝統音楽に関心のあるすべての作曲者

ります。 本音楽集団作曲賞受賞作とすることもあ 在を行うこともあり、又第一位作品を日 而審査で決めかねる場合は演奏による客 によって入選作を三曲程度選びます。譜 審査は総譜を提出して頂き、 西面害在

記

被員可、又、 中棹・太棹のいずれか) 1、琵琶(筑前 持替えも可)1、尺八2、三味線(細柿・ て含まないこと 2、十七粒1、打楽器各種(演奏者数2) 又は薩摩)1、筝(十三絃又は二十絃) 「但し以上の標準編成より三名程度まで ●楽器編成 横笛(篠笛もしくは能管、

●入選発表 一九八○年一月中旬

洋楽器及び声楽は原則とし

●楽曲の形式

●演奏時間 十五分前後

歴を添えること) ●募集締切 一九七九年十二月十五日(土) 日本音楽集団事務所に提出、簡単な経

機会を得られるよう努力します。 他の人選作品についてもできる限り上演 楽集団の定期演奏会で初演します。また 入選作の初演 第一位入選作は日本音

各五万円 貢金 第一位 二十万円、第二、三位

します。 を持つ以外、全ての権利は作曲者に帰属 入選作の権利 日本音楽集団が初演権

に応募してもかまいません。 くても同じ作品(未発表のもの)を次回 てもけっこうです。又、今年採用されな りますので、傾向を考慮して応募なさっ 音楽集団であたります。審査員は毎年変 ●審査 今回の審査は広衛量平氏と日

矢崎明子地唄三絃リサイタル

古典と現代

題未定(委嘱初演)/三木稔 新帖/作曲者不評 爱の歌(委嘱初演)/杵屋正邦・歌詩 梁應秘抄 八重衣/石川勾当

替助出演—菊地梯子(等)、野坂恵子(等)

昭和五十四年十月二十二日(月)午後五時半開演 入場料—二、〇〇〇円(全自由席

芝ABC会館ホール

お問い合せーカメラータ・トウキョウ四〇五一六〇八



日本音楽集団1978年度後期写真展

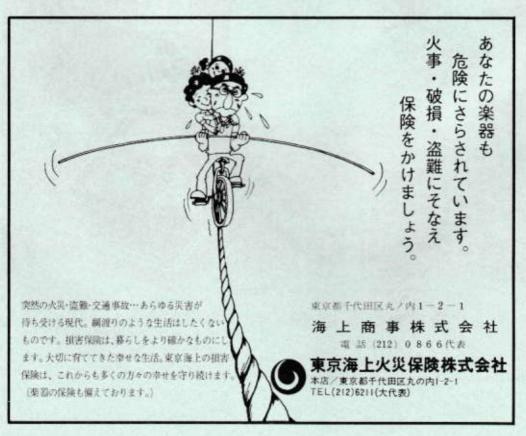
1979年1月22-23日連続定期演奏会より 都市センター・ホール

第一夜(22日)より「くるだんど」(指揮・荒谷後治氏)



第一夜(22日)より「飛騨によせる三つのバラード」

1月23日の演奏会後の記念パーティで 歳沢修氏(右から2人目)と歓談する長沢代表(左から2人目)



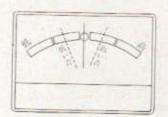
〈WT-13〉 定価 ¥35,000 ●田興に歩がは有名

- ずっと長い間、考えられて来た悩みが今こ、に解決しました。 誰れにでも簡単に正確な音が、しかも目で見年ら調絃できます。
- 自分で調絃出来ない方、演奏等で多くのお箏を調絃される方、 専門家で正しい音を追求される方、尺八の正しい音を 勉強される方、もうご安心下さい。この言思べが 全てを解決します。
- ◆全国の小、中学校で事楽器を使うようにな りました。先生方ご安心下さい。邦楽の音が すぐ到ります。指導用には最適です。
- 申期子、構造子、中空剥子、乃木割子、桑耕子、尺八期子、 古今謂子、本雲井謂子、半雪井謂子、片香井謂子、雲井謂子 単岩戸調子、片岩戸調子、岩戸調子の14の調子が出来ます。
- → 丁園、壱越、盤洋、黄砂、双層に移満出来ます。
- ●ロッル・チリ(ハ) は勿論のこと、メリ、中メリモ出来ます。
- 事業(一尺八寸)を載(一尺八寸) 類型(二尺一寸) 質様(二尺三寸) 双頭(二尺五寸・一尺三寸) の尺八なら装律出来ます。

耳

10

●メーターを見ながら、らくらく調絃 色を認さながら講覧するのでなく目で見ながら別は 出来るのはこの「傷ゃたけです。誰れても正確さは多



大るのと同様です。 をよくするため

譲ったらよいでしょう。 かの関連器で、挙の関連器で、挙の関連器で、変の関連器で、ないできるようになったら、この関連器で、挙の指揮をきされば、非りをつかむ関連器で、挙の関連を首分でする誤解、押手の甘さを直す訓練、ツのメーニの関連器で、挙の関連を首分でする誤解、押手の甘さを直す訓練、ツのメー ります。目でたしかめているうちに、自然に耳の方も出来でくることが期待される声ではありません。時にはあきらめでしまうこともあるようです。ことではありません。時にはあきらめでしまうこともあるようです。私も同感です。三と高さしいのも、なんとか是正したいということだそうです。私も同感です。三さ苦しいのも、なんとか是正したいということだそうです。私も同感です。三さ苦しいのも、なんとか是正したいということだそうです。私も同感です。三さ苦しいのも、なんとかというには、人のツのメリの自かよくはずれてきこの調律器の考案者の発案の動機は、尺八のツのメリの自かよくはずれてき - 校教育でまず平均律の耳をつくり、邦来に入って、一段を遊んだ耳の訓練にという。この調律器を利用したら、効果が大いによると申せましょう。それはまず平均律で含を正し、耳を訓練しておいて、次に古典の音律へと進むとい 12

比松前を表立 電気を 利用 した調

りません。

芸楽では、曲を教えることが、結古のすべてになっていて、基礎訓練はほと、大門者ばかりでなく、専門家にとっても正確な音を追究する人には、東京無比な新兵器である。しかも、機械に勢い人でも仮える簡単な器具である。気のなど、大きである。しかも、機械に勢い人でも仮える簡単な器具であり、持ち継ば大丈夫である。しかも、機械に勢い人でも仮える簡単な器具であり、持ち継ば大丈夫である。しかも、機械に勢い人でも仮える簡単な器具であり、持ち継ば大丈夫である。しかも、機械に勢い人でも仮える簡単な器具であり、持ち継ば大丈夫である。しかも、機械に勢い人でも仮える簡単な器具であり、持ち継ば大丈夫である。しかも、機械に当けてきる前がなられているが三級によっているが一般である。 律器の 傑作 近東京崇術大学教経 2 城道郡民全額銀長

子の狂った不愉快な演奏は影を沒するであろう。その普及を持るものである。 に原子笛や音楽などが用いられるか、これは或る特定の自のみを主めていまって発明された。 満代 」 「年来「期待路」は使用権ので使利で見ての柱の割子って発明された。 満代 」 「年来に関連的で使利で見ての柱の割子って発明された。 満代 」 「年本音樂を定して主様工業権によることである。このためが最も困難することは、楽器の調子を正しく正様にとることである。このためが最も困難することは、楽器の調子を正しくとることが出来るが、学習途中にある人や相歩の人は自分の4で調子を正しくとることが出来るが、学習途中にある人や相歩の人は自分の4で調子を正していません。 っていては概想期くにたえないものになってしまう。例えば事の「六段」を領索する際に、技巧がいる。例えば事の「六段」を領索する際に、技巧がいる。 邦 樂 用 調 律器に to

技巧がいかに上手でも夢の の調律が正規であることが必要であ 或者對有架大學的發致拉 学習途中にある人や初歩の人 田 選子が任 に西郷

販売元 JAC 日本音響株式会社 東京都座区赤坂2-5-27 八千代ビル10F

Wan KORG 京王技研工業株式会社

111 英史

ジャーナリストのみた現代邦楽 司会 丹羽正明 横溝亮一佐々木光・村松直樹

った方ですし、佐々木光さんは「音楽旬 記者、そしてデスクとして永年活躍なさ ご出席の横溝亮一さんは「東京新聞」の とを主眼にお話しを伺いたいと思います。 現代邦楽はどういうものか、といったこ て来られたか、ジャーナリストから見た 現代邦楽というものをどういう風に扱っ 方々に、新聞編集者としてのお立場から 丹羽 今日は、音楽のジャーナリストの 親」の責任者として、また、村松直樹さ んは「音楽新聞」という戦前からの音楽

> 界の状況をつぶさに見て来られた方々で 専門紙の現社長として、それぞれに音楽

中にある現代邦楽の範疇についてのお話 それではまず、現代邦楽の定義といいま でなく、皆さまのご経験の上から念頭の すか、はっきり明文化されたという意味 から始めていただきましょうか。 ナリストでいらっしゃるわけですが、 皆さまは、評論活動も含めて音楽ジャ

> から……。つまり、大体一九五○年代の 日本民族の楽器を見直そうというところ うなものが始まったようにぼくは理解し ったところから、いわゆる現代邦楽のよ 後半、「邦楽4人の会」がスタートを切 ているんですけどね。

は清水脩の<六つの断章>は昭和十六年 作品の例からいうと、毎の独奏曲などで ども、自分たちの持っている表現手段に 意味では演奏家のグループではあるけれ 近くの歴史を持っているグループですね。 古い歴史がありますね。 ひとつのポイントになりますね。ただ、 マッチした新しい作品を作曲家に委嘱し しかも、それは創作と結びついたという 丹羽 邦楽 4人の会はもうすでに二十年 て創作を促していったという意味では、 に書かれたもので、時代的にははるかに

宮城さんの後を手がけたのはほぼ確かで 佐々木 そう、清水さんが一番古くから

なイメージとしては、この「邦楽現代」 れてきた現代邦楽という言い方の一般的 丹羽 それからもうひとつ、今までなさ 九五九年頃から扱っていました。それか わゆる現代邦楽といったようなものを の一号にもちょっと触れられていますけ NHKがかつてラジオ放送で、い

> 月に一度ないし二度「現代の音楽」の時 ら、その流れはいまだにNHKのFMで 間帯で扱っている。数年前までは毎週あ ということがひとつありますね。 めて、その現代邦楽というイメージがこ 動きがあるわけです。そういうことも含 かつて盛んだったころはNHKが委嘱し 吸収されて頻度からいえばかなり減っち ったものですが、「現代の音楽」の中に こ二十年ぐらいの間に定着してきている てずい分作品を生み出して行ったという やったということがあるわけですけども

おきたい気がしますね。 ろからはカッコにくくって、とりのけて なものは、いわゆる現代邦楽というとこ で作られたもの、例えば新作長唄のよう 使った作品の中でも、全く伝統的な手法 それから、新しく書かれた伝統楽器を

作品が相互的に刺激されてでてきたとい 畑の作曲家の作品と、洋楽畑の作曲家の り方みたいな形になって、いわゆる邦楽 それがひとつの新しい邦楽の作曲家のあ けども。そういう人たちが書き始めて、 すよ。中能島さんだとか、他にもいます 書き始めたという動きもあると思うんで 楽をやっていた人が逆に洋楽畑の作曲家 佐々木 具体的な問題でいうと、伝統音 の委嘱作品に刺激されて、それで新作を

現代邦楽の範疇を歴史的に見ると

としては極めて伝統的であっても、とに 統ということから離れて、今日的な発想 品という風に考えます。その場合、手法 横溝 ぼくはやはり、新しく書かれた作 およそこの二通りのものではなかろうか 今日演奏されている現代邦楽というのは と漠然と考えています。実際問題として、 めて現代邦楽と言っていいのではないか のもとに書き下されたもの。その両方含 かく新しく書かれたもの。それから、伝

る今使っている中での現代邦楽に入るの たりの。新日本音楽。というのはいわゆ そうしますと、例えば宮城道雄あ

> か入らないのかというのはどうでしょう。 本音楽であって、新日本音楽とは一線を いるジャンルの中では、宮城さんは新日

まあ、これは一種の通念としての話しの ゆる戦前の新日本音楽を止揚し、新しく きている。だけど宮城さん以降、だれが 場合でいいと思うんですが。 かわからないんですけど。しかし、いわ になると、これはどこで線を切っていい 現代邦楽というのを始めたかということ に理念の上でも運動の面でも区別されて 画したのが現代邦楽だっていう、明らか んですが。今までの現代邦楽と言われて 佐々木 その点ぼくも疑問に思っている

う風に思うんですが

なのかもしれませんね。 というのが、現代邦楽のひとつの共通項 て洋楽との接点を持った作曲活動をした 楽の作曲技法を学んだり取り入れたりし 基盤だけじゃなくて、何らかの意味で洋 丹羽 そうすると場合によったら宮城さ んもそうでしたが、全く日本の伝統的な

う呼び方で称される内容の動きが作品活 動の上に出てきたと理解しているんです。 文夫、小島美子さんなど集まって色々な それが一九六〇年前後あたりから小山清 代邦楽。というようなジャンル、そうい が出てくる。一九七〇年代になって。現 着目して「ノーベンバー・ステップス」 てきた。それから一方、武満徹が琵琶に の会が活動し始め、作品も次第に生まれ 勉強をした。こういうなかで、邦楽4人 北原草山、牧野由多可、塚谷晃弘、小泉 メンバーが集まり、清瀬保二、小山清茂 いうのをやったこともあります。多彩な ればならん……と主唱し、邦楽勉強会と から帰国して、やっぱり邦楽をやらなけ 音楽評論家の山根銀二さんがヨーロッパ 茂、牧野由多可さんという人も出て来た。 邦楽器による作品をボッボッ書き始めて よ。しかし一方、清水さんのような人が んではないかとぼくは思っているんです 楽の方が萎縮したような状態に置かれた 逆に洋栗が非常に広がっていく一方、邦 年の敗戦で邦楽家が相当衝撃を受けて、 佐々木 その辺のことは、戦後昭和二十

> く触発され、民族的な自覚とか意識が生 ボーになったと考えますね。 まれ、そこに邦楽に対する関心がエネル これは戦後の洋楽の流入に対して、大き

生活あるいは生活感覚というものを生か ういう風に考えると、そういった現在の うような議論をした覚えがあります。そ 手法をとり入れられたのではないかとい そういうような意味で宮城さんも洋楽の 脚して生きた邦楽を作らねばならないと まちがいであって、今日只今の社会に立 ばかりに芸術的なものを求めているのは ちがとかく古典の世界、別の通俗的な言 いう考え方があるだろうということです。 い方をするならば、後向きに過去の世界 楽かもしれない。邦楽を扱っている人た 音楽、邦楽を作ったという意味で現代邦 合は洋楽の手法を取り入れながら新しい ど話が出ましたけれども、宮城道雄の場 論した記憶がありますね。結局、さきほ 決めるかということについてはかなり議 楽という言葉を使う場合に、どこまでを ども、邦楽関係の記者と当時この現代邦 は、洋楽の取材編集が多かったんですけ スクをやっていました。ぼく個人として 音楽担当記者をしていて、合せてそのデ 語とどう使いわけられていたでしょうね。 横溝 ぼくは長く新聞社にいて芸能欄の 邦楽という言い方が新日本音楽などの用 で抵抗なく使われていますが、この現代 う用語が新聞などのジャーナリズムの上 丹羽 例えば今はもちろん現代邦楽とい

> いう気がしますね。 方がゴタ混ぜになったままではないかと とがありました。現在は二つの解釈の仕 てきて、時にはどうして使い分けなきゃ と。それを狭い意味での現代邦楽と考え、 代の初めごろから始まっていたというこ というような形で考えられる活動という れない。これは大きな範疇、定義ですね。 べて現代邦楽であると言っていいかもし して新しく創作されたならば、それはす ならんかなあというような話しをしたこ ーラップさせた考え方が編集者仲間で出 つまり大きな輪と小さな輪と二つオーバ のが一九五○年代の末、あるいは六○年 よりも、むしろ未来に開かれるべき邦楽 もっと厳密な意味で、過去、現在という やっているように、現代邦楽というのは ところがさきほど佐々木さんもおっし

丹羽 そういう点、村松さんいかがです

融通性があるもので、時には両方うまく すが、やはりジャーナリズムというのは と広義に解釈する場合とあると思うんで 村松 そうですね、狭義に解釈する場合

> らず、戦後文化的な現象すべてに対して よね。ただね、現代邦楽という言葉に限 抵抗を感じながら使っているわけですけ いろんな新しい言葉が出てきて、かなり 漠然と広く使っちゃうことがあるんです

と広くとれば二十世紀の音楽全部を現代 丹羽 のになるわけですね。 で概念づけるときにかなり融通のあるも は邦楽だけに限らなく、芸術現象を言葉 もあるし、もう少しさかのぼって第一次 世界大戦後を含めることもあるし、もっ 楽について歴史的に講義する時に、第二 無碍なんですよね。例えば学校で現代音 扱っているとは言い切れないと思うんで ういう用語をジャーナリズムがルーズに 音楽と呼ぶことだってある。だからこれ 次大戦後の前衛的なものだけをいうこと の言い方をする時に、これも非常に融通 えば洋楽についても現代音楽というも 碍であると言える。もう一つの点は、例 すね。というのは実体そのものが融通無 ぼくは思うんですが、 必ずしもそ

ジャーナリズムの現状と現代邦楽へのアプローチの仕方

感じがするんですが。更に次の問題とし て、それぞれの方が現代邦楽をマスメデ けをしながら共通の認識に達したという いうものに対する概念が、歴史的な時付 丹羽 今までのお話しで大体現代邦楽と

話しを伺いたいのですが。 代邦楽の歩みというものをジャーナリズ ィアの上で扱って来られたご経験上、 ムにどう反映されていらしたかというお

横溝 ジャーナリズムの上に現代邦楽が



日本の伝統的な世界に密着した新聞でし と言って、かなり花柳界をはじめとして えると、私の新聞での経験からしても非 どの程度反映しているかということを考 るわけですが。しかしそれでもなお、 そういう点では自信をもった発言ができ 関が一番邦楽の世界を取り上げてきたで ましてね。そういうこともあって、一般 前を持っているとかいうような記者がい に長唄の名取りであるとか、踊りでも名 邦楽についてかなり詳しい人がいて、現 すね。私のいた東京新聞は戦前の都新聞 常に敬々たるものであるような気がしま かったような気がします。 に対して邦楽の一ぐらいの割合でしかな わゆる洋楽畑の記事と比べると洋楽の九 あろうと思います。他の新聞と見比べて ジャーナリズムの中でもおそらく東京新 た。ですから私の先輩記者、同僚記者に

代邦楽ですね。そういうものの中にある ば東京新聞に邦楽コンクールというのが ば東京新聞に邦楽コンクールというのが は東京新聞に邦楽コンクールというのが

非常に閉鎖された一つの世界であると思 させるようにすることが大切だと思いま 若い人にどしどし聞かせ、親しみを感じ みたいなフィーリングに対して、今の若 伝統芸能の持つ、ある種の。敷居の高さ。 わずぎらいで行かない人も多いし、また、 くことが必要ではないかと思います。食 ないんで、まずこの閉鎖性をなくして行 られなければ、真の発展や隆盛はあり得 能でもが、広い大衆の関心と支持に支え キーナリズム、聴衆などのすべてにおい ですね。これはそれと共にある評論 います。いわば、内輪同士の小社会なん ょうか。それとともにレバートリイとし たいなものを感じているんではないでし い人は敏感に、本能的にある種の反発み ても言えることで。どんな芸術でも、 て定着するいい作品をどんどんふやし、 現代邦楽は、伝統邦楽をも含めて 藝

歌、ポピュラーソング、あるいはクラン歌というのは小学唱歌に始まって、流行験というのは小学唱歌に始まって、流行機 よく言われることですが、一般シーナリズムであれ、音楽ジャーナリズ

ックといったものが中心になってしまっていると思うんです。だから音楽ジャーナリズムの世界に入って、あるいは一般ジャーナリズムの世界に入って、あるいは一般ジャーナリズムの世界に入って、あるいは一般であれ、現代邦楽であれ、自身の体験楽であれ、現代邦楽であれ、自身の体験を担当させられた記者たちは伝統的な邦を担当させられた記者たちは伝統的な邦を担当させられた記者たちは伝統のであれ、現代邦楽であれ、自身の体験を担当させられるの世界によってもあっても書きようがないんで事に書くといっても書きようがないんですよね。

これはもう日本の音楽教育のあり方に という は ま本的には 戻ってしまう 問題であろうと 思うんです。ですから現代のジャーナリ 太 ム が 邦楽に対して 極めて 冷淡だという ことは 事実だけども、その 冷淡さという これから現代 邦楽というものを育てて、これから現代 邦楽というものを育てて、これから現代 邦楽というものを育てて、これから現代 邦楽というものを育てて、 は しなければならないのではないかと思 成しなければならないのではないかと思うんですね。

経済界の人たちのところへ行くとしたら 経済界の人たちのところへ行くとしたら 経済界の人たちのところへ行くとしたら 経済界の人たちのところへ行くとしたら 経済界の人たちのところへ行くとしたら 経済界の人たちのところへ行くとしたら

> うです。こまったことですが。 がみたいにして来るという現象があるよ だみたいにして来るという現象があるよ だみたいにして来るという現象があるよ だみたいにして来るという現象があるよ

だけというのが、ちゃんとした大学を出 横溝 それは実際そうですね。 りぼく自身、そういうアプローチの仕方 年代の手ばから六○年代にかけてですよ そして新しい音楽を作ろうと活動を始め そういう人たちが、邦楽器を扱ったり伝 たり、武満さんが尺八や琵琶を扱い、そ ても現代邦楽に多少関心を持つようにな でないかという気がしますね。ぼくにし の人物で知っていると言えば、 しかなかったんです。 楽というものに関心を持ち始めた。つま ね。そういう活動に引きずられて現代邦 たのは、さっき話が出ましたが一九五〇 統的な邦楽に何がしかの材料を求める、 の作曲家には何がしかの親近感がある。 れから三木さんの作品など、つまり洋楽 に、小山清茂さんの/木挽順/が書かれ ったとするならば、さっき話が出たよう てきて新聞社に入った記者でもその程度 邦楽関係 宮城道師

ようじゃないか、見なきゃいけないといないと思う。日本の文化の全体の状況かないと思う。日本の文化の全体の状況から言ってね。ヨーロッパを解題として意識の変革を計り、つまり自分の足元を見識の変革を計り、つまりには横溝さんだけじゃ

う意識が高まってきて、それが観念的な はく努力がなされてきたと思うんですよ。 はく努力がなされてきたと思うんですよ。 はればならないという意識を具体化する ためにはいきなり邦楽の世界へ行くより、 作楽畑の世界の人たちが近づいてゆくの を後から追っかけていくというアプロー を後から追っかけていくというアプロー を後から追っかけていくというアプロー キの仕方しかぼくにはなかった。今、音 キの仕方しかぼくにはなかった。今、音 キの仕方しかぼくにはなかった。今、音 を持っている人たちの大方はそういう道 を持っている人たちの大方はそういう道 を持っている人たちの大方はそういう道

佐々木 それから後の問題があるわけで 本音楽集団が定期公債をすると非常に当 事業全体に一九六〇年頃の燃え上った頃 のいわゆる現代邦楽というものが、例えば日 邦楽全体に一九六〇年頃の燃え上った頃 のいわゆる現代邦楽の時代は過ぎてしま のいわゆる現代邦楽の時代は過ぎてしま のいわゆる現代邦楽の時代は過ぎてしま のいわゆる現代邦楽の時代は過ぎてしま のいわゆる現代邦楽の時代は過ぎてしま のいわゆる現代邦楽の時代は過ぎてしま



丹羽正明氏

ないかという気がするんですが。

丹羽 例えば集団が作曲公募をはじめま したが、若い作曲家に作品を書くチャン となが、若い作曲家に作品を書くチャン

ただ出てきた作品、参加する作曲家から ただ出てきた作品、参加する作曲家から かけてやらなくてはね。それは一般的な がけてやらなくてはね。それは一般的な がするとそんなに多くない。これは時間を かけてやらなくてはね。それは一般的な がするという制約条件があって、なか なか一般作曲家が参加できない間超があ なか一般作曲家が参加できない間超があ なか一般作曲家が参加できない間超があ なか一般作曲家が参加できない間超があ なか一般作曲家が参加できない間超があ なかしれないし、やっぱりある種の普 るかもしれないような感じがする。

丹羽 現代邦楽のジャンルに手を染めた 作曲家、つまり伝統的な楽器を使って新 しく曲を書いたことのある作曲家という のは、非常に多いですね。むしろいわゆ る現代邦楽のジャンルの作品を書いたこ とのない作曲家を探した方が今や早いく らいですね。ほとんどの人が邦楽器を使って新 た曲を書いているんじゃないですか。 佐々木 いや、例えば現音の作曲家の名 佐々木 いや、例えば現音の作曲家の名 を見てみると、やはり二、三十パーセ シトじゃないですか。

ゆる洋楽の畑の中で作曲家として第一線何十人いるか知りませんが、ふつういわ丹羽 でもそれは、現音の作曲家が何百

どが書いていると思うんですよね。 どが書いていると思うんですよね。 どが書いていると思うんですよね。

やっぱり声楽的なものというのは全体の 品を主に書いていますね。アンサンブル く人でも洋楽畑の人はわりと器楽的な作 が多く、声楽が少ない。今現代邦楽を書 よね。それが現代邦楽では器楽的なもの 日本の伝統邦楽が今でも非常に盛んです はもともどうたの中から発生しているし、 る人は少なくなったようであると。邦楽 したが、やっぱり、現代邦楽の作品を書 評」で、たまたま現代邦楽の話しが出ま 中でも大きなウエイトを占めるわけで、 のは少ないわけです。しかし、洋楽でも だけど、新しく現代邦楽に手を染めてい く人がわりと帝連化してきたということ。 ものが多く、語り物とかうたい物という 村松 つい最近、NHKFMの「音楽時

たういうのが少ないということは、ひとなっていうの問題があるんじゃないかと思います。

佐々木 るという傾向もあるのではないですか。 大胆に使っていた時期を一つおえて、そ ないですか。現代邦楽の場合でもそうい むずかしさに慎重になり、尻込みしてい つかっている感じがする。しかし、この の次になにを表現するかという課題にぶ 実験的に、古い手法を脱して、むら息と いる観がある。ひところの様な邦楽器を った意味では同じような困難さを抱えて つの壁にぶつかっているといえるんでは つきたという観があって、作曲家自身一 問題でもゆきづまり、手法の面でも手が 使った現代音楽の場合でも、 の数はやはり少ない。いわゆる洋楽器を を使った作品を書いているけれども、 邦楽器の特有の音色を珍らしがって 確かに目ぼしい作曲家が邦楽器 いま内容の 7

ジャーナリズムに書かせるアピールを

代邦楽に手を染めているということが、 代邦楽に手を染めているということが、 代邦楽に手を染めているということが、 代邦楽の動きが絶えず反映されてきたか として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽の動きをみ として、そういった現代邦楽のもいうことが、

活字として反映され、又、仮に沈滞しているとすればそれに応じて活字の上ではいるとすればそれに応じて活字の上ではいう風な形が対応しているのか、その辺はどうなんでしょう。

のが。つまり、日本音楽集団の他に例えすね、どうしても現象としてそういうもせぬ木 やっぱり対応してくると思いま



体的に出てこない。 邦楽そのものの追っかけてくる力が、全 いけないと思うけど、何かもう一つ現代 うな形になっていると、これはやっぱり 今の段階でほとんど全部代表しているよ 大事な団体だから比重をもたせなければ わけですよね。ところが日本音楽集団が いうのが上っているという風に見られる したひとつの因子として総体的な比重と もっと沢山出てくると、現象の中に共通 ば何々合奏団、何々グループというのが

横溝ぼくは両方に責任が、 ずっとお話があったように、自国の音楽 けないことだと思っているんですが。今 はないかと。これはぼく自身も音楽ジャ における音楽活動の中で少なすぎるので リズムでも現代邦楽が扱われる量は日本 んじゃないかと思います。一般ジャーナ いう言葉は大げさですけど、原因がある かかわらずそういう問題点を指摘すると 非常に大きいものがあるはずだし、にも 点に立てば、現代邦楽の動きというのは をいかにこれから築いていくかという観 ナリストとして大いに反省しなきゃい まあ責任と

> ジャーナリズムの側にこの問題を強く自 とつには先ほど私が申し上げたように、 りになかなか出てこない。で、それはひ 的に記事なり、あるいはラジオの番組な いうことですね。 いる人たちの経験や知識がなさすぎると うんです。それは実際に現場に携わって うまくつながらないという面があると思 具体的に記事にするかという段階で道が てどのような番組にするか、どのように 又、そういうことを理論的に考えたとし 非常に少ないということがありますね。 ばならないというような意識を持つ人が 覚する、あるいはキャンペーンしなけれ 解剖するとかいうようなことが具体

力というものが、現代邦楽の世界に欠け う意識を持たせるだけの押しあげていく ているんではないかという気もするんで 方、編集者に特集でも組ませるとい

リズム側に対する演奏者側からのアプロ ーチの仕方はどうですか。 例えば具体的に言って、 ジャーナ

いか、 曲者にしても、運動の主催者、 横溝 ええ、演奏者にしてもあるいは作 積極的にアプローチしてもいいのではな ーサーなどがもう少しジャーナリズムに むしろもっとすべきだと思います プロデュ

丹羽 フィルが来ますと、事前に色々パンフレ 例えば洋楽でカラヤンとベルリン・ 他との比較においてはどうでしょ

> り具合がこの現代邦楽に関しては少ない けですが、そういうブレッシャーのかか ットを刷って新聞社へアプローチするわ

と思うんですよね。 くとね、聴衆の持つ力というのが我々を 風に考えているかということを考えてい ただ、やはり聴衆も現代邦楽をどういう 佐々木 それは確かにあるでしょうね。 横溝 ええ、極めて少ないですね せるような作品がもっと出てもらいたい 書くだろう、という形での期待感を抱か を聞きたいな、今度あの人はどんな作品 動かすわけで。結局作品として現代邦楽

その現象が多くの聴衆の支持がありかつ 大切だということですか。 が悪い、これはフォローしなければいけ これを紙面に取り上げそこなったら具合 社会的に注目される現象でもしあれば、 ないという意識を持たせるようなことが 丹羽 つまりジャーナリストにすれば、

思いますね。例えば、カラヤンとかカラ の若い人たちが邦楽を、現代邦楽も含め ってくると思うんですけどね。だから今 若い人たちの音楽的略好が当然重要にな アピールするものには取り上げたり積極 に音楽ファンというのは目がうるさい。 村松 そうですね。それは大いにあると 地味なものでも、いい仕事をしている人 ス、ああいった大スターというのでなく 的にサポートする。そのためには、今の 村松さんなんかどうですか、その点。

それはクリティックやジャーナリズムの ということになってくるわけですよね。 てどれだけ積極的に関心を持っているか

とつのグループについて、これは全くの が三回出ている。という風にけっこうひ 音楽集団関係の記事が一年間に五回載っ りまして、例えばここで七六年には日本 索引」の七六年、七七年版というのがあ NHKが綴さんした「音楽関係新聞記事 丹羽 ただここにデータがあるんですよ。 責任も当然大きいわけです。 いるんですよね。 データですが、けっこう取り上げられて ています。邦楽4人の会はそれに対して 一回、七七年はどうかというと集団関係

うわけです。 けですよね。この二つで代表されてしま けれども、それ以外の場合には少ないわ とか、邦楽4人の会だと取り上げられる 村松 だけど、結局これは日本音楽集団

場からの記事はあんまりありませんね。 丹羽 そうですねえ、現代邦楽という立 取り上げられている面もあるのではない ていると思うけど、ある意味で言えば日 横溝でも、 邦楽界」というのがひとつだけあります。 社会時評「芸術家――作家と作品と現代 なければならないのか、なぜ必要なのか 母にあたる部分、なぜこういうことをし でしょうか。そういう個々の現象を取り 上げるだけでなく、現象の背後にある分 本音楽集団の活動というのは珍しいから 今確かにかなりの回数は出

くて、その代表格として日本音楽集団と 日常的に広がらなければならないはずな 運動とか珍しい存在とかいうことでなく、 るかもしれない。もっとそういうこと、 いう大変奇特なことをやっている面があ と思うんだけれども、日本という国で日 んです。それはそれで非常にけっこうだ 働いているという両方の面があると思う ろうし、各新聞の担当の記者の目がよく の記事があるというのも、 から今丹羽さんのおっしゃったそれだけ てきてほしいなという気がしますね。だ がりのある論調みたいなものがもっと出 といったような、もっと社会的視野の広 本の音楽を扱っている団体が非常に少な ナリズムに対するアプローチもあるだ 広がらないかというようなこ 集団側のジャ

当然光はもっと大きく広がって当然音楽集団そのもののあり方が、光をもてばるわけじゃないですかね。だから日本音るわけじゃないですかね。だから日本音を開発のもののあり方が、光をもてばまりであるという形でのことになってい



佐々木光氏

よ。

でね、やっぱり世間の関心が彼ら自身のでね、やっぱり世間の関心が彼ら自身のでね、やっぱり世間の関心が彼ら自身のでれ、やっぱり世間の関心が彼ら自身のでれ、やっぱり世間の関心が彼ら自身のともあるけど、ぼくらは外部にいるものともあるけど、ぼくらは外部にいるものともあるけど、ぼくらは外部にいるものともあるけど、ぼくらは外部にいるものともあるけど、ぼくらは外部にいるものともあるとういう気になるようにやらせなめしてそういう気になるようにやらせなめしてそういう気になるようにやらせなめていたもごっこ。

性々木 ただ、一九六○年代の日本音楽 学がらびた一銭も出なかったでしょ。今、 庁からびた一銭も出なかったでしょ。今、 主催公演でしょ。文化庁から金が出るし、 を乱し、メンバーも伝がったし、コンク ールもやったし、創造条件は大分改善さ れた。そういう意味で大変な市民権をも れた。そういう意味で大変な市民権をも れた。そういう意味で大変な市民権をも れた。そういう意味で大変な市民権をも れた。そういう意味で大変な市民権をも れた。そういう意味で大変な市民権をも れた。そういう意味で大変な市民権をも ころがそれだけで安心してはならない、 ところがそれだけで安心してはならない、 ところがそれだけで安心してはならない、 ところがそれだけで安心してはならない、 ところがそれだけで安心してはならない、 ところがそれだけで安心してはならない、 ところがそれだけで安心してはならない、 ところがそれだけで安心してはならない、

代音楽だという見方になっちゃって、結 が思うんだけど、現代邦楽みていて、 本で思うんだけど、現代邦楽みていて、 ありゃ邦楽の世界のでき事だと考える。 ありで邦楽側からするならば、ありゃ現 他方で邦楽側からするならば、ありゃ現

> ようなことにならざるを得ない運命とい 的な音楽を重ね合せながら日本独自の音 れば、日本の伝統的な音楽と西洋の伝統 局谷間におっこっているという見方もで うちょっと強く持ってもいいんじゃない ズムにせよ一般ジャーナリズムにせよも え提起するという意識を音楽ジャーナリ 代邦楽なら現代邦楽の世界に対して、又、 っているわけだから、その世界つまり現 リーダーというのか、そういう機能も持 る力も同時に持っている。オピニオン・ たことを書くだけじゃなくて、 いうのは単に起ったことを反映して起っ ろうと思うんです。ジャーナリズムって るようないかにも矛盾した点があるんだ と同時に、その両方の世界からそむかれ ものを築くという。そこになにかすばら の二つの点と点を重ね合せながら新しい うのがあるだろうと思うだろうけど。そ ですけどね。だからいずれにしてもこう ぼくなんかもそういうように期待するん んではないかという考え方があると思う。 合せて何かものすごいものができてくる 常にすばらしい伝統のエネルギーを重ね 楽を築いていくという、だから二つの非 かなという気がしているんです。 しいものが生まれるという期待感がある いうひとつの運動というのは、今言った きると思うんですよね。別の言い方をす 般市民に対して両面に向って問題を訴 やっぱり西洋音楽と日本音楽の音 起こさせ

> > ろでしょうか。
> > ろでしょうか。
> > ろでしょうか。

佐々木 が、腕をこまねいて大きく構えていると らない。運動としての市民権は音楽集団 ということですね じてでも、積極的に接触を求めるべきだ その事前事後に括字なりロコミなどを通 すべきだということですね。と同時に、 ナリズムの方へより積極的なアピールを 団体なり作曲をしている側から、 いうことじゃ決してないけれども、 中間の問題としてはジャーナリズムの方 ム側の方でもついてゆく。しかし、その な中味のものであれば当然ジャーナリズ れに即してジャーナリズム側とすれば、 目指していくこと、これはまあ当然。そ て現代邦楽の歩みはより質の高いものを 時間かけて、ねばり強くやらなければな 気もするんですよね。これはものすごく ているような作曲家もずい分いるような いでちょっと手を出してひっこめちゃっ まず原則的にはそれを無視し得ないよう 奏の創作活動を発展させる音楽運動とし まだまだ持っていないと思うんですよ。 は持ったけれど、作品としての市民権は 今の話をまとめますと、作曲、 ただ、やはり徹底的にはやらな

楽体系はまるで違うから、それを結びつ

石田一志

●日本音楽集団定期コンサート五○回

れなりに深く感銘した。こうしたメッセ ージはこのショーズに演奏された唯一の イックなメッセージが集団の独特のサウ ちがいをこえて、共通のヒニーマニステ たが、他誌(「音楽の友」三月号)でも 身の美意識が共感をもって聴いた作品と きる内容になっていたからである。私自 集団の力強い十五年の歩みを深く感得で 実に総括的な選曲で、周到な演奏も含め れた広瀬量平や杵屋正邦の作品まで含む 曲から大きなアンサンブル作品まで、ま 顔が印象に残るものだった。これまでの ンドを通して伝わってくる思いがし、そ 投訳、三木両氏の作品には作風や編成の 述べたように、各々三曲ずつ演奏された いうことでは、広瀬の「夢十夜」であっ の重要作だけでなく、集団の委嘱で作ら た長沢勝俊、三木稔という集団の作曲家 プログラムということであったが、独奏 歴史のなかで話題を残した作品を集めた も一夜組続で催された日本音楽集団の定 今季聴いた演奏会では、なんといって

はっきり打ち出されていたことも、集団はっきり打ち出されていたことも、集団はっきり打ち出されていたことも、集団はっきり打ち出されていたことも、集団はらしかったと思う。

二二一)で今季初めて接した。 大編成オケ きたい。 なっているということでここにあげてお の古典曲「偶対」が発想の直接的契機と からして入らない作品であろうが、尺八 充実していた。狭義の現代邦楽には編成 の変奏曲と作者が述べる第四楽章は実に の剝罐が奏する百八音に構成される煩悩 る音楽的博学ぶりが十分に発揮された総 群による二部五楽章からなる人作で、こ と、二本の尺八、小鼓、大鼓、笙の独奏 都をイメージとした作品集」(OX七一 合的作品という印象で聴いた。特に三枚 の作曲家の洋の東西、古典から現代に至 作品集のレコード「現代日本の音楽~京 七三年の作曲だそうだが、京響の依嘱 諸井誠「協奏交響曲第一番《偶対》」

●ラヴィ・シャンカル『六段の主題に

インド古典音楽と近世邦楽の、いわば 大三)に収められている曲。このレコード『アジアの出会い』(MGーレコード『アジアの出会い』(MGーレコード『アジアの出会い』(MGーレコードには、筝や尺八といった日本の楽器によるインド音楽や、逆に日本の都節に極よるインド音楽や、逆に日本の都節に極めて近いラーガを使ったインドの楽器にあて近いラーガを使ったインドの楽器にあて近いラーガを使ったインドの楽器にある「日本へ捧げる曲」など民族音楽上

の貴重な実験をもり込んだ作品が幾つか 収められているのだが、最後をかざるの 収められているのだが、最後をかざるの が、このシタール、尺八、等、タブラ奏 が、このシタール、尺八、等、タブラ奏 が、このシタール、尺八、等、タブラ奏 が、このシタール、尺八、等、タブラ奏 なされているので、よけい強調されてい なされているので、よけい強調されてい ると思うのだが、民族的姿器と共に育く なされた練された芸、音楽語法や「手」と いったものが生き生きと語り合う様が、 私には充分楽しめた。

木村重雄

編集部よりの条件は「3~5を選んで」ということだが、あえてひとつにしぼったのは、ほかに該当するコンサートを希たのは、ほかに該当するコンサートを希たのは、ほかに該当するコンサートを希を聴かなかったという当方の怠慢をあえど聴かなかったという当方の怠慢をあえど聴かなかったという当方の怠慢をあえど聴かなからで、決して居直りではない。その「ひとつ」とは、日本音楽集団のその「ひとつ」とは、日本音楽集団のその「ひとつ」とは、日本音楽集団の記の回定訓偵奏会で、これは1月22・23 自立15間年の記念コンサートの一環でもある。この演奏会の全体を通じて感じらある。この演奏会の全体を通じて感じらある。この演奏会の全体を通じて感じらある。この演奏会の全体を通じて感じらある。この演奏会の全体を通じて感じらある。この演奏会の全体を通じて感じら

神経を使いながら、底流には一種の落着神経を使いながら、底流には一種の高いにといってよいほどあり、中品にも演奏にほかならない。つまり、作品にも演奏にほかならない。つまり、作品にも演奏にほかならない。つまり、作品にも演奏にほかならない。つまり、作品にも演奏にはかならない。つまり、作品にも演奏にはかならない。つまり、作品にも演奏にはかなられる。そこにははっきりとうかがいとられる。そこにははっきりとうかがいとられる。そこにははっきりとうかがいとられる。そこにははっきりとうかがいとられる。そこにははっきりとうかがいとられる。そこには必ずないに技術のすべてを投入し、細かいフルに技術のすべてを投入し、細かいフルに技術のすべてを投入し、細かいかがすべて止揚され、演奏面ではアンサかがすべて止揚され、演奏面ではアンサかがすべて止揚され、演奏面ではアンサルがすべて上揚され、演奏面ではアンサルがより、底流には一種の落着神経を使いながら、底流には一種の落着神経を使いながら、底流には一種の落着神経を使いながら、底流には一種の落着神経を使いない。

支配し、単に演奏のみではなく、舞台芸 としては切実に理解しうる。勿論、海外 りも、こうしたステージを通じての再会 ものは、各地における批評や報道などと のかをふれあうことの方が、わたしたち で、彼らがいかにみずからを確かめえた いる。およそ海外公舗の成果などという 術としての楽しさと嬉しさをも発揮して が、魅力的なショーマンショブが全体を た経験と自信とから発したものであろう 疑いもなく半年前の海外公演のもたらし きからくる娯しみが一貫し、聴き手にな よりのニュースを信じないわけでもない 穀後の三木の△巨火∨となると、これは かも精密な仕上りを聴かせる。それが、 んらかの緊張をも強いることなしに、し

その意義はきわめて大きい。 映していたともいえる。狭して単なる リアリスティックな価値を間違いなく反 ると、15年と5回がみごとに重なり合っ ずかの支持者たちによってみつめられな たこのコンサートはそうした数字のもつ トを生み出していた。こうして考えてみ 層の深みが、この日の充実したコンサー ひとつに定着し、さらに海外にまで理解 社会におけるかけがえのない演奏団体の がら次第に発展し、今日では日本の音楽 楽集団は当然のことながら最初はごくわ 力こそ、なにものにも変え難い。日本音 が、やはりこうした実感のもたらす説得 者をえているが、そうした彼らを支える 「ひとつ」ではなく、ここに集約された

小宮多美江

品の演奏会があるが、あえてそれ以外の記念演奏会から、さわらび会第十四回演奏会 (十一月一日、朝日生命ホール)と後藤 (十一月一日、朝日生命ホール)と後藤 (十一月一日、朝日生命ホール)と後藤 (十一月一日、朝日生命ホール)と後藤 (十一月一日、朝日生命ホール)と後藤 (十一月十四日、青山タ ワーホール)の一つをとりあげてみたい。 こつの演奏会に共通して感銘を受けた のは、いわゆる現代邦楽準品についてよ りはむしろ、これら演奏家たちがこの二 りはむしろ、これら演奏家たちがこの二 の機関をとげて、古典や従来の邦楽作 のの機関をとげて、古典や従来の邦楽作

> 後藤すみ子は、「邦楽4人の会」の中 のとりくみには深く期するところがあっ のとりくみには深く期するところがあっ

曲目は古典から「みだれ」、後藤自作 の三絃独奏曲「鳴沙」、牧野由多可「パルティータ」、宮城道雄作品から小曲ニルティータ」、宮城道雄作品から小曲ニ

が唯一という。三楽章からなるこの曲は楽曲は少く、さらに標題のない曲はこれ二百を越えるという宮城作品中、案外器二百を越えるという宮城作品中、案外器

しているということであった。

思われたのは象徴的で感慨深かった。 思われたのは象徴的で感慨深かった。

曲目は籐崎勾当「残月」、松村禎三「詩の演奏の充実も著しいものがあった。

ドチウト山ドリ重奏曲というがとより 川敏弥「織女星」、小山茂「四重奏曲」。 曲第一番」、福島雄次郎「四重奏曲」。 助

若手の小山が四重奏曲という形を粘り が、福島、助川の三人がそれぞれに独自 村、福島、助川の三人がそれぞれに独自 村、福島、助川の三人がそれぞれに独自 がでれることが浮きぼりにされ興味深 としていることが浮きぼりにされ興味深

でも実現していたからだと思う。
の路襲にとどまらない解釈と演奏をここの路襲にとどまらない解釈と演奏をここ

演奏の質の変化に見合って、二夜共に 演奏の質の変化に見合って、二夜共に をいるとなっているのである。

土田貞夫

日本の音楽の伝統は極度に洗練された日本の音楽の伝統は極度に洗練されたそういう観点からすれば極めて日本的いえる「華やぎ」(三木槍作)の演奏が似える「華やぎ」(三木槍作)の演奏が似える「華やぎ」(三木槍作)の演奏が似える「華やぎ」(三木槍作)の演奏がいて私は安川加寿子の強くピアノの雰囲いて私は安川加寿子の強くピアノの雰囲いて私は安川加寿子の強くピアノの雰囲いて私は安川加寿子の強くピアノの雰囲いて私は安川加寿子の強くピアノの雰囲いて私は安川加寿子の強くピアノの雰囲いて私は安川加寿子の強くピアノの高島の流動を表した。両者に共通するものだめに表している。

テをみて、あれはそんなに難しいところであったのかとはじめて気付かせるといったていのもので、ここはさわりだとばかり強きまくって聴衆の拍手を誘うのとは質を異にしている。それは自然の複雑に変容する動きをそのまま具現することで、極めて難しいことに違いないが、すぐれた音楽には欠かせない条件だろうと思う。いわゆる芸達者と本ものとのわかれるところである。

久々に「邦楽4人の会」を聴いたが、

筝の音を導き出していて、造型性の豊か 前奏様式にぴったりとした作品「対応」 私には新人である牧野連が、北原自山の うあの共鳴の豊かな発声法は、神下しや 場合でも江戸近世邦楽のそれに賛同して あるプログラムを発表していたが都合が 解や声をとり入れた曲を中心にした魅力 よい対照を示していた。日本音楽集団が なヴェテラン広瀬最平の「まさむく」と で極めて自然にそしてしっかりと尺八と ンドイ氏が聴かせてくれたホーミーとい ことを想起して欲しい。蒙古から来たソ びとか唸りといった力強い発声があった いるわけではない。もっと始源的なおら つかず聴けなかったのは残念であった。 声といえば発声法について私はいつの

生かそうとする意図がうかがわれた。小 ピアノのための息」にはそういった声を ころがなかったのは当然であろう。 を作だけで商奏してもアッピールすると られる楽器がふさわしければよいのであ ある。現代邦楽の中に入れてもよいと思 規であった。まさにそれは日本の音楽で 呼吸びったりといった力強いリズムの表 ィムパニーを並べて宇宙の生気に阿眠の 機枪の「阿呍」は夫々の奏者と五つのテ 音で聴いた下山一二三の「声と打楽器と 術的発声の原型のようなものである。現 悪霊払い、あるいは絵解き説法などの呪 も意味がない。ヴィヴァルディの「四季」 って、そうでなかったら邦楽器を用いて ってとり上げたが、音楽の内容に、用い

長尾一雄

開立十五周年を迎えた日本音楽集団に のいては、別に私は前号にくわしく論じ ったが、十五周年と同時に第五十回目を記 たが、十五周年と同時に第五十回目を記 が奏だったし、野坂自身の二十絃等独奏 一華やき」も、野坂自身の二十絃等独奏 一華やき」も、野坂自身の二十絃等独奏 一華の事象は、長沢勝俊の旧作を抜粋し た「ファンタスマゴリア」のなかでの坂 た「ファンタスマゴリア」のなかでの坂 た「ファンタスマゴリア」のなかでの坂 た「ファンタスマゴリア」のなかでの坂 た「ファンタスマゴリア」のなかでの坂

> である。前者は坂井なりにやはり集団と 大に歩んだ過去を集約する名演奏であり、 後者はいわゆる邦楽畑の作曲家にはじめ で表稿した集団のレバートリーである。 て委嘱した集団のレバートリーである。 で表に値斜しがちな姿勢をぐっと転回さ 楽系に値斜しがちな姿勢をぐっと転回さ せて邦楽的な伝統に向かって大きく顔を ふりむけたように見える。そしてこの邦 ま向きという姿勢が、七〇年代の末にま 並い今期の「現代邦楽」の、ひとつの特 遊ある貌になるのである。

七日の作品発表会(イイノホール)で「空

然和洋楽器の垣のようなものが観念から を含むコメントを付して、五つの新曲を を含むコメントを付して、五つの新曲を を表した。伝統の寄席芸を思わせる「実 い晩」が最佳作とはいえ、十七絃とファ い晩」が最佳作とはいえ、十七絃とファ がよっトがチンドン屋風な合奏をする「哀 紙載りの感の深いこの人の活躍には、な 紙載りの感の深いこの人の活躍には、な お知られざる未来があるように感じられ おのられざる未来があるように感じられ る。

な音楽家魂とを披鬱した。秀冽の「AK は性と、反面極めてリラックスした奔放 は性と、反面極めてリラックスした奔放 は性と、反面極めてリラックスした奔放 は性と、反面極めてリラックスした奔放

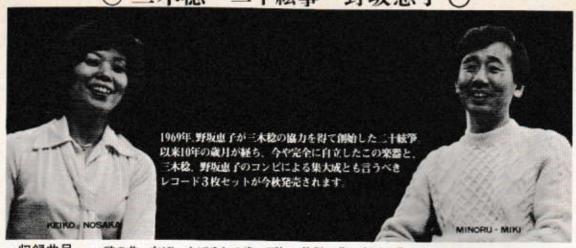
1」が東洋的無の深みを知らしめるのとは別に、インド旅行やシャンカルとの交は別に、インド旅行やシャンカルとの交は別に、インド旅行やシャンカルとの交れた饒舌」とも言うべき音楽態度にも、また知られざる未来の大波を感じるのでまた知られざる未来の大波を感じるのである。

他に注目されたのはさわらび会(十一月一日・朝日生命)と、菊地仰子十七絃 リサイタル(十一月六日・ヤマハ)で、 明者の小山茂「和楽器のための四重奏曲」 後者の広瀬量平『変容』は、共に洋楽系 後者の広瀬量平『変容』は、共に洋楽系 後者の広瀬量平『変容』は、共に洋楽系 で曲家の、一方は日本民俗芸能、一方は 日本古典文学に傾斜した、傾斜なりの結 日本古典文学に傾斜した、傾斜なりの結 日本古典文学に傾斜した、傾斜なりの結 日本古典文学に傾斜した、傾斜なりの結 日本はいた波が、今後の現代邦楽を彩るの いもしれない。



楽器と演奏者、そして作曲家との最も厳しくも優れたむすびつきがここにある!

三木稔=二十絃箏=野坂恵子 〇



破の曲. 白燿. まぼろしの米. 天如. 佐保の曲. 竜田の曲 筝譚詩集第二集 芽ばえ やよい ひばり 里曲(さとわ) 華やぎ) ひなぶり.

三木稔=二十絃箏のための音楽=野坂恵子 (二十絃等)

amerata

御予約・お問合せは 〒107 東京都港区南吉山: T - 南吉山コンド303号 カメラータ・トウキョウ TEL-03 (405) 6081

CMT-3002

3枚組

定価

¥7,000

第二部 Œ

全国各地から演奏者を招いて

☆六月十八日(月) ☆五月二十七日(日)

一十粒エコール水無月の会

午後六時半開演 芝ABC会館ホ

ル

野坂恵子二十絃エコール西那須の会

ル

☆十一月二十八日(水)

第二回リサイタル―三木稔の作品による

野坂恵子第八回筝リサイタル

ロンドンにおける野坂恵子

午後七時開演

芝ABC会館ホー

ル

日が変更になりました)

☆九月二十日(日)

☆九月十七日(月)

完萩詩(業業和書/肥後一郷 三つのフェスタル・パラード

吉村七重第一回箏リサイタル

佐薙のり子(礼景)・山口雪子(富山)・古岡粽子(天阪) 赤松稚學夫(松山)金沢歌光(福門) 菊中美智子養養 綾五十七/小山清茂 夏の叙事詩 編曲を送/二木稔

■お問い合せ・電話予約

野坂方=四六三-三八二四

午後七時開演

芝ABC会館ホー

n

日本音楽集団―四〇九-五三七四

事務所=〒−五○渋谷区代官山ハ−六野坂方 電話四六三−三八二四

秋の夜/助川敏弥 二つのファンタジー/人野義朗 題未定(委嘱初演)/長沢勝俊 各演—三橋貴風(尺八)、木村玲子(十七絃) 吉村七重第 一十絃と尺八の為の二重奏曲/堀悦子 十純等制作十周年記念行事の 一回筝リサイタル 環として 竜田の曲/二木稔

一十級による

九七九年九月十七日(月)午後七時間演 芝ABC会館ホール

■チケット取扱い―渋谷東島プレイガイド

銀座橋居堂

日本音楽集団四〇九-五三七四

お問い合せ・電話予約=吉村方六七三・八三九一

HOOH.

☆五月士二日(土) ★今後の日程 十絃筝制作 一十絃箏の魅力のすべて 午後六時半開演 相生市民会館大ホー

十周年記念行事

INFORMATION

第九回日本音楽集団夏期合奏研究会――ハワイと軽井沢で開催

ハワイの部 — Teach in Hawaii

毎年夏の軽井沢で行っている、恒例の日本音楽集団夏則合奏研究会を、 毎年はハワイでも開催することになりました。この企画は、かねでから の念頼で、良い機会があればと思っておりましたところ、ちょうど今年 は六月と七月に開催されるハワイ大学インターアーツ・フェスティバル に、日本からは日本音楽集団が唯一の団体として招待され、七月九日から二十二日の十四日間参加することになりました。この機会に現地より の協力もあり、これに引き続き七月二十二日から二十八日の七日間合奏 研究会を開催することになりました。この機会に現地より の協力もあり、これに引き続き七月二十二日から二十八日の七日間合奏 初心者から、中、上級の全での方々に満足して頂けるよう、今までにな 才楽しく魅力あふれた企画を考えています。講習会だけでなく、コンサ ートやパーティ、ハイキング、ワイキキの浜辺でのスイミング、ホノル ル市内観光、希望者にはオブショナルファー等々……。又、現地の人た ちの多数の参加も見込まれており、邦楽器を通して日米の文化交流も計 りたいと思っております。

□募集楽器 笛・尺八・三味線・琵琶・箏(十三絃・二十絃)・十七絃・□募集楽器 笛・尺八・三味線・琵琶・箏(十三絃・二十絃)・十七絃・□日時 七月二十二日(日)~二十八日(土)七日間

□募集人員 五○名 □締切

六月二十五日

っているやさしい曲を、団員と一緒に楽しく合奏できる時間も設けまし場別の曲まで、多様な指導の準備をしています。また今年は、誰でも知中、上級の方には大編成の曲から細かい指導の受けられるそれぞれの楽楽器を始めて間もない方、五線譜になじみのない方には「初級教室」。 ●軽井沢の部 ―― 涼風吹き渡る軽井沢で邦楽器の合奏を楽しみましょうノ

で "参加することに意義がある" 合奏研究会。初めての方も大歓迎で

□会場 北軽井沢ミュージック・ホール

□募集楽器 ハワイの部と同じ □定員 一二○名

○○円切手)を同封の上、集団事務局へお申し込み下さい。

⇒以上詳しいパンフレットは六○円切手(ハワイと軽井沢両方の時は二□会費 三〇、○○○円(友の会割引、団体割引あり)

全国からアマチュア・グループ集合第二回日本音楽集団フェスティバル

充実したコンサートが期待できそうです。
が年は関西から、長年独自の活動を続けて実績を上けているグルーす。昨年は関西から、長年独自の活動を続けて実績を上けているグルーを実したコンサートが期待できそうです。

会年参加するグループは、京都から「京都邦乗グループ」、富山から「奏会」、長野からは異色なところで太鼓のグループ「御殿太鼓」(予定)、そして関西からは日本音楽協会関西合奏団「贈」です。又、東京からは日本音楽協会「星組」合奏団、日本音楽協会合奏団「たあく」ももちろん参加します。

行う予定ですので奮ってご参加、ご来場をお願いします。とって新しい原動力と成ることと思います。このフェスティバルは毎年とって新しい原動力と成ることと思います。このフェスティバルは毎年ことにより培われる若いエネルギーが、必ずや今後の日本音楽の将来にこのように全国各地から同胞が集まり、同じ会場でコンサートを持つ

□場所 芝増上寺ホール 午後三時開演

|大場料 一、〇〇〇円

日本音楽集団及び団員に関する今後の予定(現在決っている十二月までのもの、 字は集団主催) 太 十二日(木)

五月十二日(土)

二十稜筝の魅力のすべて(三木・野坂・田嶋田旗)

五月十九日(土)

第二回日本音楽集団フェスティバル(P.44参照) 相生市民会館

六月八日 (金)

五月二十七日(日) 五月二十三日(水)

野坂恵子二十粒エコール西那須の会(三木・野坂・吉村他 琵琶の響(半田他出演) 青山タワー・ホール 芝増上寺ホール

六月十八日(月)

制作補 内田とも子 作·演出 秋浜悟史 **尨53定期演奏会―― 邦楽器と綴る四つの物語** 語り 伊藤惣一 制作 三木稔 P. 20

青山タワー・ホール

六月二十二日(金)、二十三日(土) 本年度日本舞踊協会創作舞踊公演 三つ山晩唱」 海津勝一郎作・三木稔作曲・花柳寿楽演出へ杉浦・ 芝ABC会館ホール

野坂・坂田他出演)

国立劇場小ホール

十二月七日(金)

十一月九日(金)

十月十日(水

為4定期演奏会 ――演奏家による作曲へのアプローチその NHK教育テレビ「邦楽まわり舞台」に集団が出演

七月六日(金)

二 (P.21) 構成・田村拓男

七月九日(月)~二十二日(日) ハワイ大学第一回インターアーツ・フェスティバ ルに集団が出資

七月二十二日(日)~二十八日(土) 第九回日本音楽集団夏期合奏研究会・ハワイの

八月十六日(木)~十九日(日) 第九回日本音楽集団夏期合奏研究会・軽井沢の部 (凡4) ハワイ大学

八月二十四日(金)~九月十日(日) 「平塚芳雄と財団法人晃曬邦楽会海外交流」 P. 44 北軽井沢ミュージック・ホール

に藤崎が同行

九月六日(木)

第二回ぐるーぶ・だだ演奏会(望月・尾崎・藤舎・竪田・

草月会館ホール

高橋・黒坂・西川出演)

一九七九年度地方公演 ―― その一(文化庁助成)

九月十一日(火) 名古屋 名古屋市民会館中ホール

十三日(金)

岐阜産業会館文化ホー 费橋市民文化会館

九月十七日(月) 九月三十日(日)

十四日(土

奈良県文化会館

十月五、六、十、十二日 ロンドン・オールドヴィック劇場 三木稔作曲オペラ <あた―AN ACTOR'S REVENGE>初続 ENGLISH 野坂恵子第二回ロンドン・リサイタル(三木作品による) 吉村七重第一回筝リサイタル 芝ABC会館ホール

今藤早苗・花柳錦之輔の五名日本より参加) スチュアート・ベッドフォード指揮へ三木・野坂・高橋・ MUSIC THEATRE 公舗・コーリン・グレアム演出

走65定期演奏会――琵琶楽その二 ※55秋の総合定期演奏会 指揮 井上道義 曲目=凸地 都市センター・ホール

十一月二十八日(水) 野坂恵子第八回箏リサイタル 構成 山田美吾子

※57定期演奏会──かぐら1979 芝ABC会館ホール 青山タワー・ホール

一九七九年度地方公演 ―その二(文化庁助成) 構成 三木稔 青山タワー・ホール

十二月十七日(月) 十八日(火) * 津 律(予定) 大津市民会館 三重県文化会館

二十一日(金) 二十日(水) 和歌山 版(第五回関西定期) 厚生年金会館ホー 和歌山市民会館小ホール

一千百年 路 姬路市民会館

全日空の飛行機に乗ると機内放送番組の六チャンネルで、五月一日から六月末 日まで集団の演奏が聞けます。

☆日本音楽集団は東京音楽大学民族音楽研究所の協力団体で、同大学の好意により C─四○三教室を練習場として使用しております。練習場の電話は、九八三一八 〇九六(直通)です。

		渡辺 精一	三木 卓雄	鶴田 錦史	野坂 操寿	施沢 鋒	(有)琴光堂和楽器店	△贊助会員〉	山田美喜子(杉浦 弘和(駐地 慶可(藤崎 重康へ	田嶋 直士(福田輝久(三橋 貴風	坂田 誠山(宮田耕八朗(望月 太八(〈演奏部〉	-		(Q	常任指揮者			育席独奏者	楽監	代表
		丹野井成寿	古川羽衣山	半田多真美	雷島 邦子	高瀬 草朝	P楽器店 (松本・諏訪・東京)		琵琶)名譽団員	二味緑)	胡弓・笙・作曲)	尺八・笛)	尺八)	尺八)*	尺八)*	尺八)*	尺八·笛)	笛)				以上六名で幹部会を構成する)		杉補 弘和	宮田耕八朗	野坂 恵子		長沢 勝俊
旋針 昭一 芝 佑青 星 姐	植 知子 佐藤 敏直 鳳声 晴由	菊地 悌子 野口美恵子 鯉密 広行	川崎祥悦野口鎮広衛量平	小田切清光 中村 八大 田中 利光		秋浜 悟史 藤舎 呂悦 芹沢 英雄	青木 誠 戸井 昌造 清水 義矩	<団友>	宮越・生子(帯・三味線)	花房はるえ(筝・三味線)	池上 早苗(筝)	吉村 七重(筆)*	砂崎 知子(筝・三味線・胡弓)	野坂 恵子(筝・三味線)	宮本 孝子(筝)休団中	白根きぬ子(筝)	坂井 敏子(筝・三味線・胡弓)	田原 順子(筑前琵琶)	半田 淳子(薩摩琵琶) *		会	マネージメント協力(国内及び海外)		霜島 素子	本図 光子	事務局 奈良義寛(主任)	会計監查 芹沢 英雄	運営委員長 坂田 誠山
西武建設株式会社	AOIミニージック株式会社	<維持会友>		西川、浩平	柳家小三治 ラニィ・シェルダン	矢崎 明子 ヘンリー・バーネット	康男 ディヴィッド・	増田 睦実 ディヴィッド・ローブ	加藤祥(三味線)	池田 朗子(箏)	幅沢栄和子(箏)	中村久美子(箏)	竹井 誠(尺八)	米沢 浩(尺八)	養田 可郎 (三味線)	田嶋忠美子(箏)	本吳嬉志子(筝)	瀧田美智子(筝)	太田 幸子(三味線)	研究団員	稲田 康(指揮)	田村 拓男(指揮・打楽器)	馬坂 昇(打楽器)	高橋 明邦(打楽器・トレーナー)	堅田 啓輝(打楽器)	藤舎 成敏(打楽器)*	尾崎 太一(打楽器)	木村 玲子(箏)
田村鎮男福	亀田 和保 野		孝年		菱電商事株式会社	株式会社豊島園	株式会社西友ストア	西武鉄道株式会社			勧野 和子		4			芸		内田とも子	三木 稔	長沢 勝俊	〈作曲部〉		前田 文男(打楽器)	水越 敏雅(打塞	出口 裕子(都)		直子〇	松本 和美(華)
稲田 洋一	野坂 純一 額本美保子	勤子	国枝 星		žt.		トア	社	昭和五十四年四月現在	+印は本年度運営委員				松岡美江	T				能多嘉	研究団員			朱器)	打楽器)				

日本音楽協会の発足にあたって

好家の情様からのさまざまな要望も数多くよせられており、特に普及事業の前では、 らの事業は年をおうごとに広汎多岐にわたってまいりましたし、全国の現代邦楽愛 幾多の普及と昂揚活動が密接に結びつきつつ活発に行われております。しかしこれ 一音楽団体の機能をはるかに超える現状です。 在、集団の活動はその創造面の根幹として行われる年六回の定期演奏会を始めとし、 でこの活動は多くの特様の御支持を得、幾多の成果をあげることが出来ました。現 代に生きる新しい音楽の創造を目指して懸命の努力をしてまいりましたが、幸にし 日本音楽集団は結成以来今年で十五年を迎えました。私達は日本の伝統楽器で現

ましたが、このたび集団の活動に御理解のある多くの方々のエネルギーの結集体と してふさわしい全国的な組織形態をもつ日本音楽協会を新たに発足させることにな このような事態に対処するため、かねてよりその組織の拡大強化が検討されて来

御案内申し上げます。尚、本協会の業務は当分の間日本音楽集団事務局が当ります。 者、芸術関係者を含め、厳正に行うべく、手順をふんでまいりたいと思います。 持ったものであり、誰師の問題、広報活動等を円滑に進めていくものです。本協会 の選出等は全国組織に適応した方法により、日本音楽集団外の、財界人、学識経験 記の世話人によりその連貫を行います。なお社団法人への体制が整い次第、各役員 は近い将来、社団法人を目指しその組織固めをしておりますが、当面は暫定的に左 ョナルからアマチュアの方までが協力しあいながら活動を進めていくという理想を 私共の意のあるところをおくみ取り頂き、ぜひ本協会に御加入下さいますよう、 本協会は日本音楽集団・協会各地方支部・各協会合奏団を包括し、プロフェッシ

協会支部



協会合奏団



昭和五十四年四月

日本音楽協会世話人代表

沢 勝

長

坂井敏子・坂田減山・田嶋直土・奈良義寛・芹沢英雄

長沢勝俊・三木稔・野坂恵子・宮田耕八朗・杉浦弘和・田村拓男・山田美喜子・

俊

先号の後記でも新聞から引用させてもら 楽芸術」の三月号に書いていたことだ。 レビ・ブロデューサーの荻元晴彦氏が一音 ったが、今度も引用させていただく。テ

った。しかし定期会員になった人は、 百名近い人たちの内、たった三人だった。 収益金はダブルベース一つ買えるほど上 ケーツと、定期会員申し込み書を配った。 帰りには出席者に新日フィルの演奏人の の演出を難まれた。色々の催しを組み、 をみて、バーティを開き収益金を寄附し これを聞いて小沢征爾が「そりゃだめ、 たい――ということで萩元氏がパーティ 社交界の婦人たちが新日フィルの経営難

定備三〇〇円 邦楽現代第七号

東京都渋谷区神宮前6上 小草川ビル2F 日本音楽集団 発行責任者 二木 一九七九年五月一日発行 霜島素子 16 14

Nihon Ongaku Shudan (Nipponia) Kobayakawa Bidg., 6-16-14 Jingumas, 電話〇三一四〇九一五三七四 (R)

表紙デザイン 及部克人 レイアウト協力 黒沢恭子 Shibuya-ku, Tokyo. けやき印刷 株式会社アジア企画群

> するのは、聴衆を感動させてお客さんを ふやすしかない」と言ったそうだ。 どんなに苦しくてもオーケストラを良く

ことがある。演奏者にはかなわない。 と共にいて、そういう場面によく接する 全く単純明快、お客を感動させるしかな い。すべてはそこに帰す、である。集団

に忘れないようにしよう。 な現象を中心に回っているのだ。お互い 楽を職業とする人はすべてこの単純明快 しかし音楽ジャーナリズムにしても、 音

二十枝特集。の予定。お楽しみに。(霜島) 次号は、二十絃箪制作十周年を記念して

「邦楽現代」取扱店

器店扱い)・琴光堂・邦楽堂 諏訪・松 浅草松屋・川崎コミヤへ以上、 本橋店、玉川店、横浜店・東武百貨店・ 東京と東京近郊 — 二 越本店・高島屋日 伊与楽器 金秀楽器 一琴光草 金沢――関屋楽器 奈良 中村樂器 武田屋棄 京都

は友の会B会員へ詳しくは本誌21ページ 四冊まで一六〇円。継続購載ご希望の方 号は三〇〇円、送料は二冊まで一二〇円 切れ、一、二号は定価二〇〇円、 中し込み下さい。尚、現在三、四号は品 直接時間ご希望の方は日本音楽集団へお 参照)になられるとお得です。

(使用楽器)

あひる 小島

ピーター

おじさん

ホルン バスーン

ティンパニー

しめる決定盤誕生!! 音楽ファンからオーディオファンまで幅広く楽

PETER AND THE WOLF

日本音楽集団



監修/三木稔

編曲、内田とも子

指揮 語り 落合恵子 荒谷俊治

構成 ふじたあさや

HICHE CBS-VII-

(このレコード)

十三味線 胡弓

クラリネット

フルート・ピッコロ 弦楽合奏 オーボエ

篠笛

(原曲)

日本音楽集団のレコード (現在発光中のもののみ)

○現代物及び古典物

レコード・タイトル	収録 善名 (作曲者)	レコード会社/番号	定值(円)
■/和楽器による現代日本の音楽	棚曲「人形胤士記」(長沢糖像)。しからみ第2 (八柱義夫) 他・	R V C / JRZ2505~8	8,000
人形胤士記/子供のための相曲	組曲「人形策土記」・子供のための組曲(長沢糠俊)	R V C / JRZ2523	2,200
野坂恵子古典攀曲集 (第一集~第八集)	一集一千鳥の曲・八投・絵 他 二集一八重衣・五段絵 他 三集一六段の調・春の曲・杵 四集一越後獅子・みだれ他 五集一春棚・屋嶋・秋楽の曲前弾	C 0 L / CLS5168, 5169 5199, 5211, 5245	å 2,000
邦楽器のためのシャコンヌ	シャコソス(安達元後)・鶴の単靴・春の曲・春の意	オーディオユニオン / Au5	3,000
三木輪作品集 I ~Ⅲ	□一古代舞曲によるパラワレーズ・凸 Ⅱ-フネット・事業計算 ・四難のための形象 Ⅱ-序の曲・程びのうた、天知・延審	C O L / GZ7003~5	2,000
萌春/長沢勝俊作品集	二つの舞曲・華四重奏曲・詩曲・前春	RVC / JRZ2558	2,200
まゆだまのうた!長沢勝俊作品集	三岐協奏碑・笛と打楽器のための音楽・二つの田薗詩・まゆだまのうた	R V C / JRZ 2574	2,200
めばえ/三本総選集vol.1	デンス・コンセルタント・芽生と・舞手・夕割の詩・竜田の曲	カメラード/CMT1001	2,500
NHKドラマ「磯門秘帖」物語	テーマ音楽・千絵の曲・山千鷹・おつなラブンディ・月夜の嗣士 他 作曲:三木絵 語り:古今亭志人朝	東是/TP72281	2,300
糠(みやび)/PCM録音による	華やを(三木稔)・六段の調・みだれ・乾八千代離子	COL / WX7510	2,500
三木稔 / 二十粒夢 / 野坂恵子	碳の曲・白糯・まはるしの米・天如・佐保・竜田・等課詩集目・ひをより	# x 9 - # / CMT3002	7,000

○解説物及び入門物

日本の楽器	日本の各業者の代表的古典曲・他に現代曲の一部収録	R V C / JRZ2529-1	4,000
日本の楽器入門	事のなかま、尺八のなかま、三味線のなかま、水敷のなかま	COL / ELS3342~3	3,000
夢の演奏法 (初級編)		V1 C / SJL2115	2,000
尺八の演奏法	尺八演奏法の基本練習強(宮田頼八郎編纂)	V1 C / SJL62	2, 200
華と尺八 (初級篇)	南しい練習曲1)(長沢勝復編曲)	VIC/SJLITT	2,200
筆と尺八 (中級篇)	単しい練習曲2)(長沢線後編曲)	V1 C / SJL178	2,700

〇編曲物

古待草/	VIC/SJL99	2,200	「琴」ヴィヴァルディ・四季	東芝/TA 60060	2,000
和洋合奏による日本のメロディ	Y # No. 2. Sept. Access	0.500	「琴」セパスチャン・パッハ	東芝/TA72037	2,300
尺八/山の鮮・海の餅・里の餅	COL/FZ7015-7	252,000	「琴」モーファルト	東芝/TA 72042	2,300
尺八・虚無僧の世界	C-d / W.X7506	2,500	! スターン日本の調べ	CBS / 25A S 42	2,500
ラヴェル・ドビッシー/二十載による	COL/WX7510	2,500	ピーターと独	25AG411	2,500

その他にカセットテープもあります。

まるで



ドビュッシー、ラヴェルが 筝のために作曲したようだ!

野坂恵子・二十絃箏エフ ・シストンション・ロア



- ●三木 稔·監修
- ●1978年8月 1979年1月 石橋メモリアル ホールにて録音

ドビュッシー 月の党 子供の領分 ラヴェル マ・メール・ロア なき王女のための パヴァース





- 二十絃箏・箏野坂恵子
- ●演奏 日本音楽集団
- ■WX-7510 ¥2,500

雅

一年麗なる筝~ 華やぎ/乱輪舌 ・

野坂恵子古典箏曲集

- ■第一集 DLS-5168
- 千鳥の曲/八段/砧/四季の眺
- ■第二集 ▶ CLS-5169
- 八重衣/五段砧/四季の曲
- ■第三集 ▶CLS-5199
- 六段の調/春の曲/梓
- ■第五集 ▶ CLS-5245(希¥2,000)

青柳/屋嶋/秋風の曲(前弾)

あびて!

出版案内 ② 全音楽譜出版社 ZEN-ON MUSIC



●162 東京都新宿区東五軒町25

電話・東京(03)267-4321 振替・東京195092

現代邦楽ライブラリー邦楽器による現代音楽の美を選求するすぐれた作品を掲載する

	Maria Constitution of the	
①三木 枪	(四群のための形象)女様・居機・曲・擣	五〇〇円
②三木 稔	(筝 譚詩集)	HOOE
③諸井 誠	(対話五題)三本の尺八のために	三〇〇円
4助川敏弥	邦楽器のための[形象]	川〇〇円
⑤間宮芳生	四面の箏のための音楽	
	三面の筝のための音楽	六五〇円
⑥小山清茂	和楽器のための〔四重奏曲第二番〕	
	和楽器のための[三重奏曲]	五〇〇円
⑦長沢勝俊	尺八・箏による(萌春)	田〇〇田
8長沢勝俊		六〇〇円
9清瀬保二	尺八三重奏曲	五〇〇円
0湯山 昭	三面の箏によるカブリース	六五〇円
①三木 稔	尺八独奏のための[孤響]	
	三本の尺八のための[ソネット]	HOOH
12間宮芳生	尺八のためのプレリュード第一番・第二番	HOOH
四山本邦山	尺八作品集丨	1000E
4佐藤敏直	ディヴェルティメント	HOOH
四石桁真礼生	箏のための組曲	HOOH
旭三木 稔	二十絃箏のための三つの作品	
	(天如)/(佐保の曲)/(竜田の曲)	A00円

一五〇〇円 「詩曲二番」 「一五〇〇円 「詩曲二番」 「八八のための 七〇〇円 「計画二番」 「八八のための 七〇〇円 「計画二番」 「八八のための 七〇〇円 「計画二番」 「八八のための 七〇〇円 「計画二番」 「一五〇〇円 八八十二 「計画二番 「一五〇〇円 八八十二 「計画二番 「一五〇〇円 八八十二 「計画二番 「一五〇〇円 八八十二 「計画二番 「一五〇〇円 八八十二 「一五〇〇円 八八十二 「計画二番 「一五〇〇円 八八十二 「八八十二 「八八十 「八八十 「八八十 「八八十 「八十 「八八十 「八十 「八十 「八八十 「八八十 「八八十 「八八十 「八八十 「八八十 「八十 「八八十 「八十 「八八十 「八十 「八 「八	一五〇〇円	尺八作品集3	印山本邦山
第平 (アキ)二本の尺八のための (1) (1) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	一日〇〇円	邦楽作品集ー	四清水 脩
第一 (アキ)二本の尺八のための (1) (1) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	一五〇〇円	尺八作品集2	谷山本邦山
類三 (評曲) 番 と 尺八のための 量平 (アキ) 二本の尺八のための (鶴林) 独奏尺八のための 真礼生 箏・鼓・だによる〔無依の咏〕 真礼生 箏・鼓・だによる〔無依の咏〕 真礼生 箏・鼓・だによる〔無依の咏〕 「まゆだまのうた〕尺八・箏のための 「まゆだまのうた〕尺八・箏のための 「まゆだまのうた」尺八・箏のための 「まゆだまのうた」尺八・箏のための 「まゆだまのうた」尺八・箏のための 「まゆだまのうた」尺八・町のための 「赤土になる妹〕/「樹下の二人」	六〇〇円	(詩曲二番)尺八独奏のための	
置平 (アキ)二本の尺八のための (1) (1) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4		(詩曲一番)箏と尺八のための	部松村植三
第平 (アキ)二本の尺八のための (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	100E	〔赤土になる妹〕/〔樹下の二人〕	四小山清茂
第一 「アキ」二本の尺八のための (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	100円	尺八と十七絃のための〔雅びのうた〕	
第平 (アキ)二本の尺八のための (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4		二面の箏のための〔箏・双重〕	
量平 (アキ)二本の尺八のための (鶴林)独奏尺八のための 真礼生 箏・鼓・だによる(無依の咏) 真礼生 箏・鼓・だによる(無依の咏)		尺八・箏・三絃のための[夕影の詩]	80三木 稔
勝俊 [詩曲]独奏尺八のための (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	五〇〇円	[まゆだまのうた]尺八・箏のための	
真礼生 等・鼓・だによる[無依の咏] 真 等のための[たゆたい] 真 等のための[たゆたい]		[詩曲]独奏尺八のための	可長沢勝俊
真	八〇〇円	等·鼓· 符による (無依の咏)	回石桁真礼生
(アキ)二本の尺八のための (鶴林)独奏尺八のための 円八と箏五重奏	五〇〇円	箏のための(たゆたい)	97 漢原 真
尺八と箏五重奏 (鶴林)独奏尺八のための (アキ)二本の尺八のための	八〇〇円	日本楽器のための四重奏曲	
(鶴林)独奏尺八のための		尺八と箏五重奏	8清賴保二
	七〇〇円	(鶴林)独奏尺八のための	
			①広瀬量平